
令和6年度市民アンケート調査概要報告書

令和7年3月

角 田 市

= 目 次 =

市民アンケート調査の結果

I	市民アンケート調査の概要	1
	（1）調査の目的	1
	（2）調査方法	1
	（3）アンケート調査票の構成	1
	（4）回収状況	2
	（5）回答者の属性	3
II	調査結果	6
1	角田市での暮らしについて	6
	（1）暮らしやすさ	6
	（2）定住意向	7
2	角田市の取り組みについて	9
	（1）3つの重点プロジェクトの効果・重要度	9
	（2）行政サービスの満足度・重要度	12
	（3）施策分野別の満足度・重要度	18
	（4）行政全体に対する満足度	26
3	これからのまちづくりの課題と方向性について	27
	（1）人口が減少した際の課題	27
	（2）人口を減少させないための施策	28
4	デジタル化の推進について	29
	（1）オンライン申請サービスの利用状況	29
	（2）デジタル化を期待する行政手続きや行政サービス	31
5	男女共同参画の推進について	33
	（1）男女の地位について	33
	（2）男女の役割について	34
6	スポーツの推進について	35
7	幸福度・満足度について	37
	（1）官公庁とSWOT分析の関係性	43
8	まちづくりについての自由意見	45

I 市民アンケート調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、市民のまちづくりに関する意識・ニーズ等を広く把握し、角田市第6次長期総合計画の策定に向けた基礎資料とすることを目的とする。

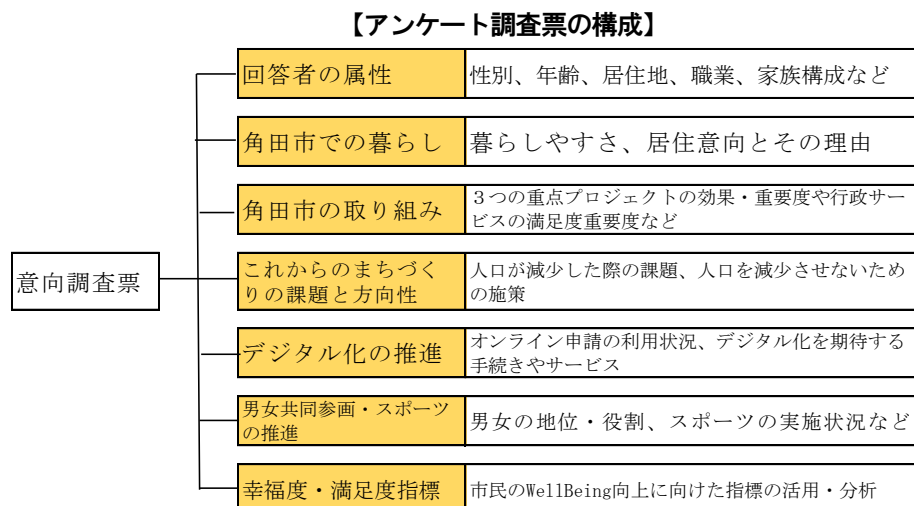
(2) 調査方法

調査対象（配布数）	16歳以上の市民2,500人 (令和6年8月1日現在の住民基本台帳より無作為に抽出)
調査期間	令和6年8月27日～令和6年9月9日
配布・回収方法	郵送配布・郵送回収
回収結果	回収票785票（回収率 31.4%）

(3) アンケート調査票の構成

アンケート調査票は、「回答者の属性」、「角田市での暮らしについて」、「角田市の取り組みについて」、「これからのまちづくりの課題と方向性について」「デジタル化の推進について」「男女共同参画の推進について」「スポーツの推進について」「幸福度・満足度について」及び「自由意見」の6つの構成を基本に意向把握を行った。

また、現行の長期総合計画（角田市第6次長期総合計画）に掲げる『46の主要施策』についての「満足度」と「重要度」の評価を実施した。



(4) 回収状況

アンケート調査票の回収状況は下表のとおり、市全体で31.4%の回収率となった。

男女別の回収率は女性が男性を5.7%上回り、年代別では70歳代の52.6%が最も高い。

Web 回答の割合は、若い世代ほど Web 回答率が高く、20歳代が47.0%と最多となった。

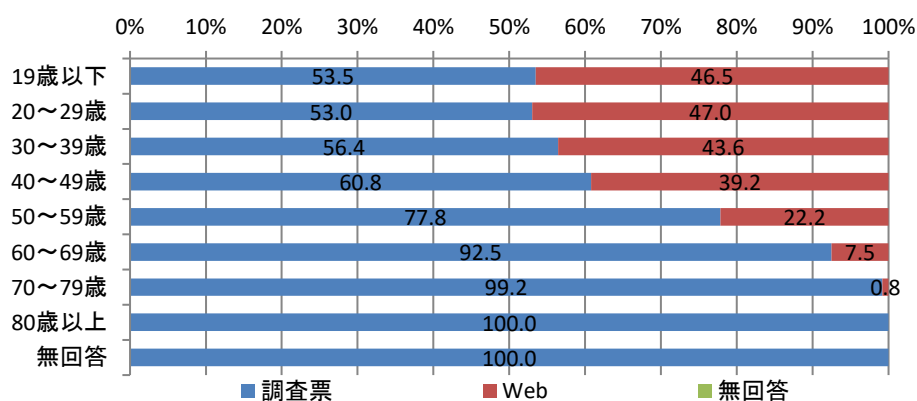
表 年代別回収数・回収率についての想定との対比

年齢	配布数	回収数	回収率	回収数の内訳		
				男	女	無回答・無効
16歳～19歳	190	43	22.6%	21	20	2
20歳～29歳	390	66	16.9%	26	40	0
30歳～39歳	440	101	23.0%	42	52	7
40歳～49歳	440	125	28.4%	47	71	7
50歳～59歳	440	158	35.9%	67	88	3
60歳～69歳	280	133	47.5%	62	69	2
70歳～79歳	230	121	52.6%	57	62	2
80歳以上	90	33	36.7%	20	12	1
無回答・無効		5		2	1	2
合計	2,500	785	31.4%	344	415	26

表 男女別回収状況

性別	男性	女性	無回答・無効	合計
配布数	1,250	1,250		2,500
構成比	50.0%	50.0%		100.0%
回収数	344	415	26	785
構成比	43.8%	52.9%	3.3%	100.0%
回収率	27.5%	33.2%		31.4%

表 年齢別の郵送と Web の回答割合



(5) 回答者の属性

属性		回答数	回答率
総数		785	100.0%
問1 性別	男性	344	43.8%
	女性	415	52.9%
	回答しない	22	2.8%
	無回答	4	0.5%
問2 年齢	19歳以下	43	5.5%
	20～29歳	66	8.4%
	30～39歳	101	12.9%
	40～49歳	125	15.9%
	50～59歳	158	20.1%
	60～69歳	133	16.9%
	70～79歳	121	15.4%
	80歳以上	33	4.2%
	無回答	5	0.6%
問3 居住 地区	角田地区	317	40.4%
	横倉地区	82	10.4%
	小田地区	18	2.3%
	枝野地区	53	6.8%
	藤尾地区	67	8.5%
	東根地区	24	3.1%
	桜地区	85	10.8%
	北郷地区	87	11.1%
	西根地区	48	6.1%
	無回答	4	0.5%

属性		回答数	回答率
問4 家族 構成	単身世帯	75	9.6%
	夫婦のみの世帯	157	20.0%
	親と子どもの二世帯世帯	391	49.8%
	親・子・孫の三世帯世帯	113	14.4%
	その他	43	5.5%
	無回答	6	0.8%
問5 職業	農林業	23	2.9%
	商工自営業	26	3.3%
	会社員	258	32.9%
	団体職員・公務員	56	7.1%
	パート・アルバイト	92	11.7%
	専業主婦(主夫)	82	10.4%
	無職	163	20.8%
	学生	48	6.1%
	その他	33	4.2%
	無回答	4	0.5%
問6 居住 歴	2年未満	25	3.2%
	2年～5年	38	4.8%
	6年～10年	43	5.5%
	11年～20年未満	83	10.6%
	20年以上	279	35.5%
	生まれてからずっと	297	37.8%
	その他	17	2.2%
	無回答	3	0.4%

- 回答者の男女別構成は女性が52.8%、男性が43.8%で、女性が9.0ポイント上回っている。令和元年3月に実施した角田市第6次長期総合計画策定のための支援業務における市民意識調査報告書（以下、「前回調査」という。）においても、女性：54.6%、男性：43.9%で女性が10.7ポイント高く、今回の調査でも、今回の調査でも女性の回答比率が高くなっている。
- 年代別では、前回調査と同様に10歳代（16歳～19歳）を加えより広い年齢層の意見を反映させるよう努めた。回答者の割合については、前回調査とほぼ同様だったが、50歳代が3ポイント増加している。
- 地区別では、角田地区が40.4%と最も多く、小田地区の割合が最小だった。
- 家族構成別では、親子二世帯、親子孫三世帯の割合がそれぞれ46.0%、21.6%で多いが、前回調査と比較すると、親子二世帯が41.5%から4.5ポイント増加、親子孫三世帯が26.7%から5.1ポイント減少と回答者の割合からの傾向として核家族化の進展が伺われる。また、単身世帯は8.0%と前回調査より2.0ポイント増加し、一方、夫婦のみの世帯は17.4%と3.7ポイント低下している。
- 職業別では、会社員が32.9%で最も多く、前回調査の31.5%から1.4ポイント増加し、無職が

22.0%から20.8%と1.2ポイント低下している。専業主婦（主夫）は前回8.9%から10.4%と1.5ポイント増加している。一方、農林業は2.9%と、前々回6.4%、前回3.4%からさらに減少している。

- 居住歴別では、生後ずっと住んでいる人が37.8%、20年以上が35.5%と両者を合わせた7割強が本市の生活に慣れているものと考えられる。「生まれてからずっと」については、前回の40.2%に比べると2.4ポイント減少し、20年以上については1.8ポイント増加している。2年未満、2年～5年、6年～10年、11年～20年未満の居住歴の浅い回答者の割合はほぼ前回同様で、よりそれぞれ増加しており、20年未満全体で23.5%から24.1%と0.6ポイント増加している。

前回回答(R2.8月)

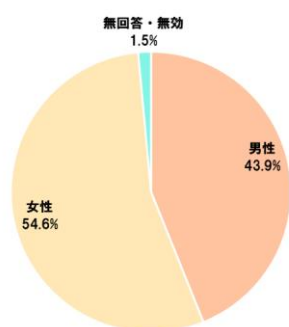


図 回答者の男女比（前回）

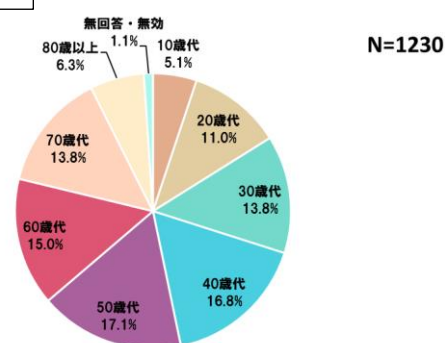


図 回答者の年代分布（前回）

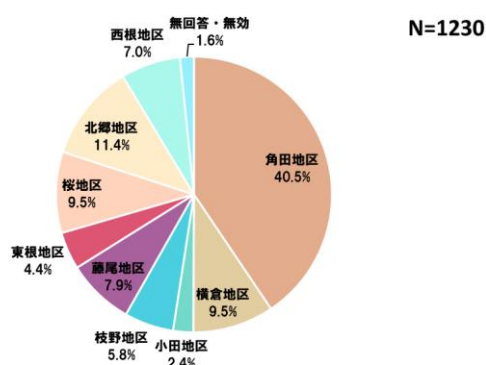


図 回答者の居住地区分布（前回）

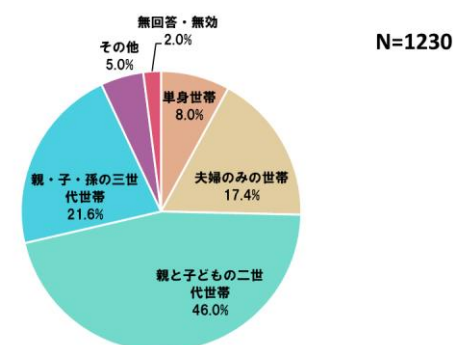


図 回答者の家族構成（前回）

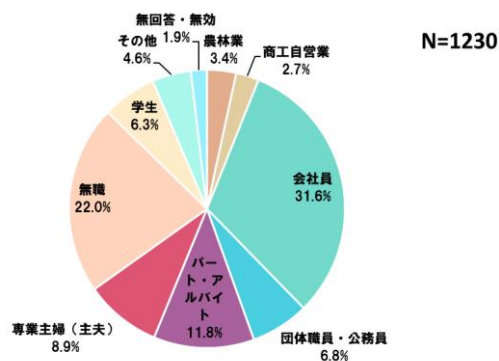


図 回答者の職業（前回）

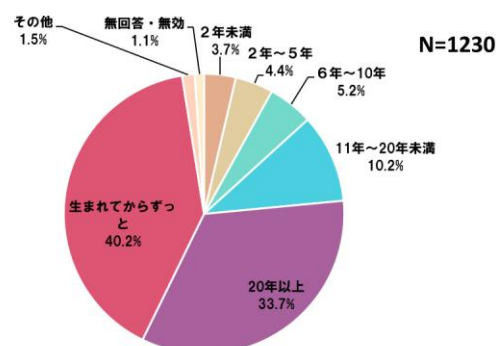


図 回答者の居住歴（前回）

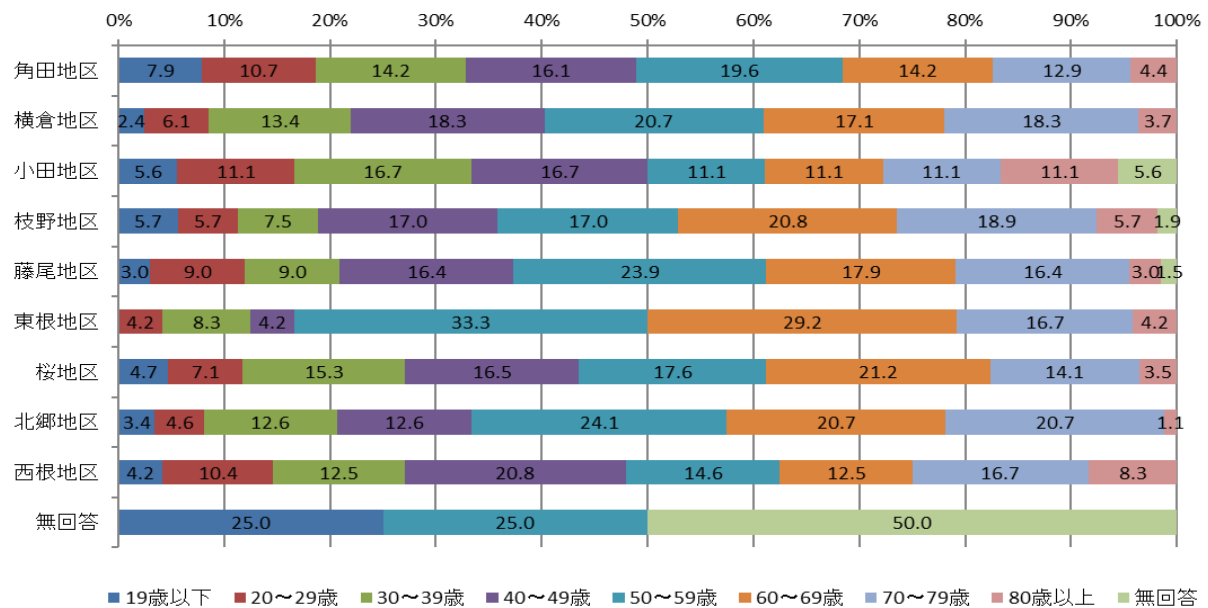


図 回答者の地区別・年代区分の構成

職業

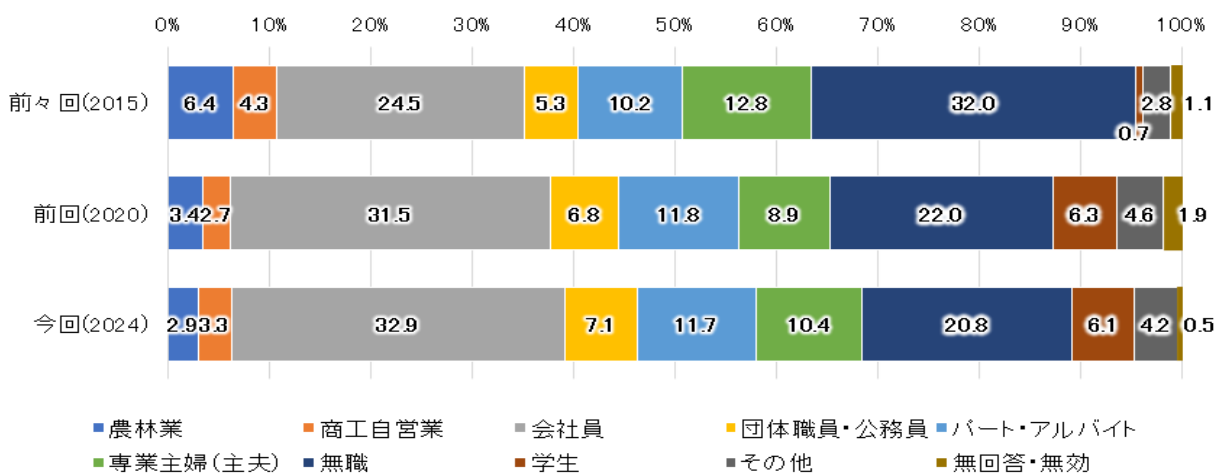


図 回答者の職業区分の変化

居住歴

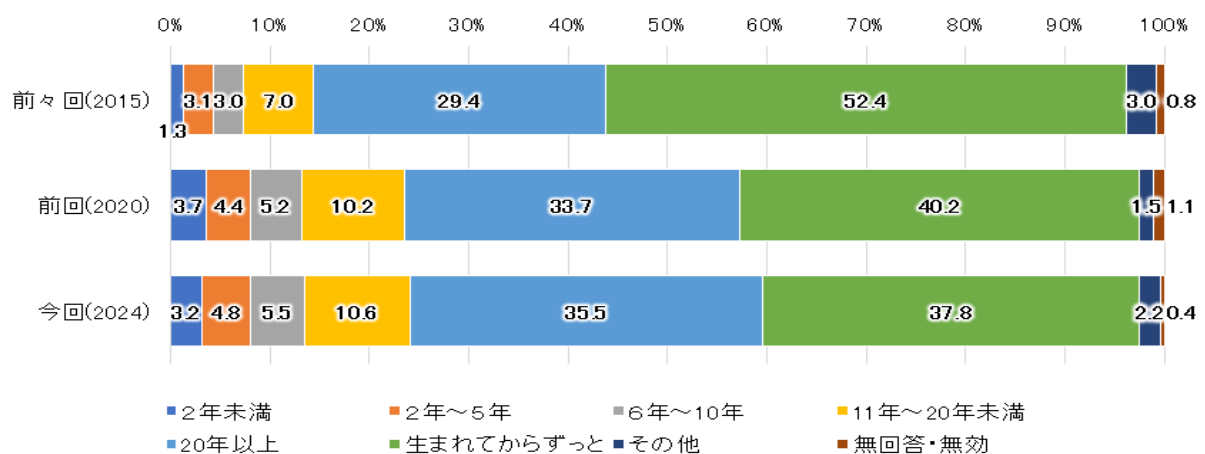


図 回答者の居住歴の変化

前回、前々回は以下による

前回 (2020) は、角田市第6次長期総合計画策定のための市民アンケート調査報告書 令和2年8月

前々回 (2015) は、角田市第5次長期総合計画後期基本計画策定支援業務市民意識調査報告書 平成27年3月

II 調査結果

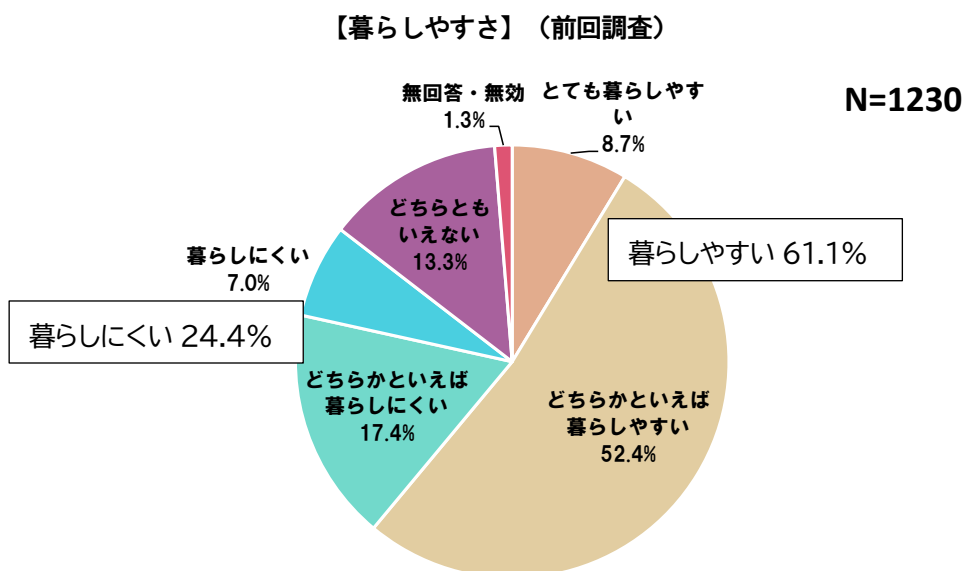
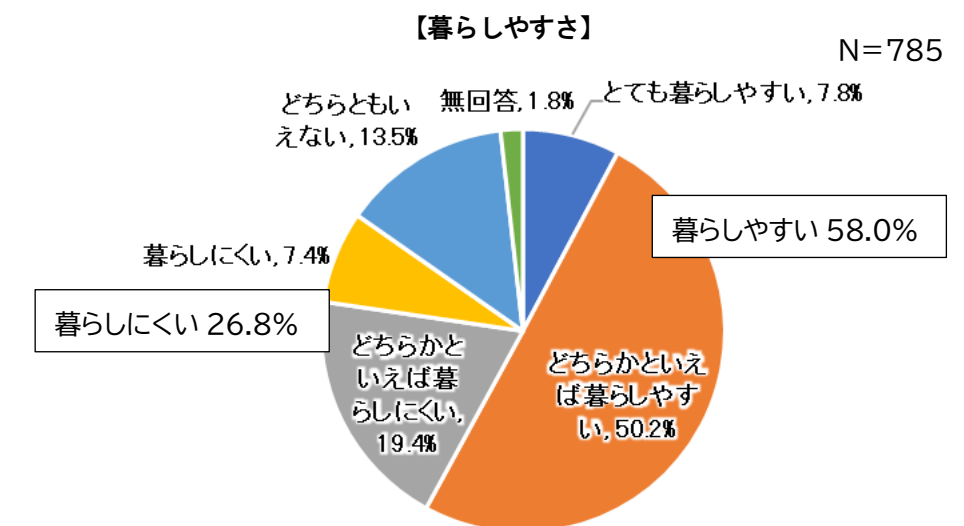
1 角田市での暮らしについて

○暮らしやすさや定住意向は、全体的に「暮らしやすい」、「住み続けたい」との回答が多い。

(1) 暮らしやすさ

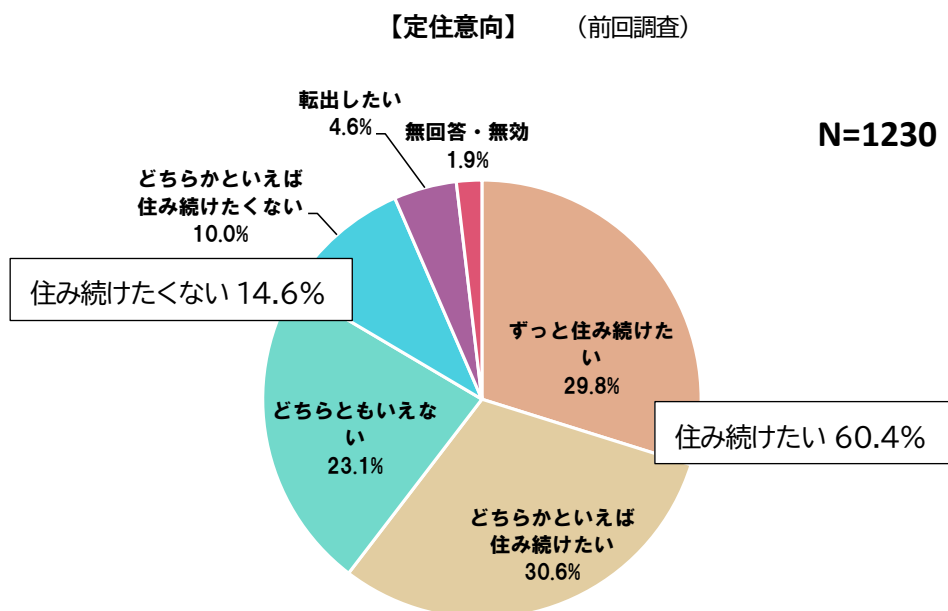
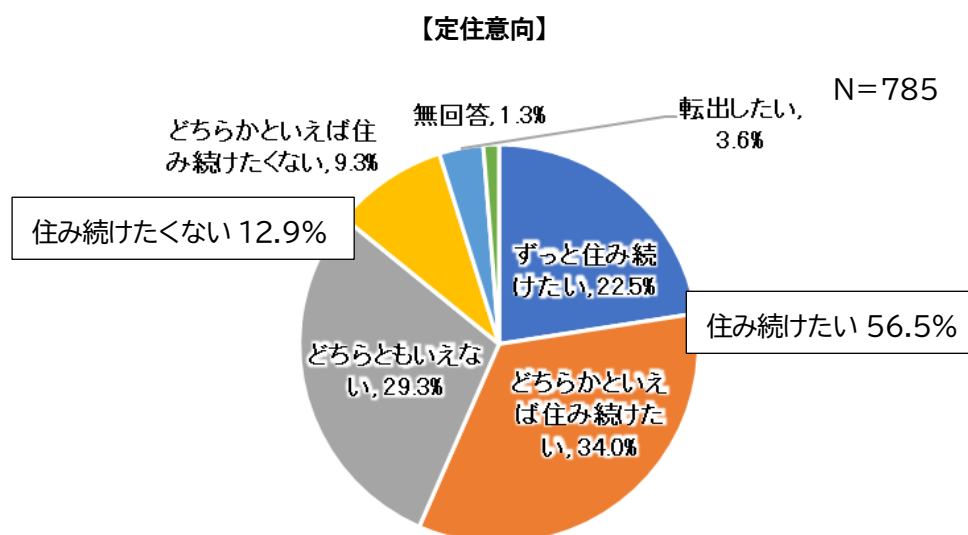
暮らしやすさは、58.0%が『暮らしやすい』（「とても暮らしやすい」と「どちらかといえば暮らしやすい」の合計）と回答しているが、前回調査より 3.1 ポイント減少している。

また、「どちらかといえば暮らしにくい」、「暮らしにくい」の合計は 26.8%で前回より 2.4 ポイント増加している。



(2) 定住意向

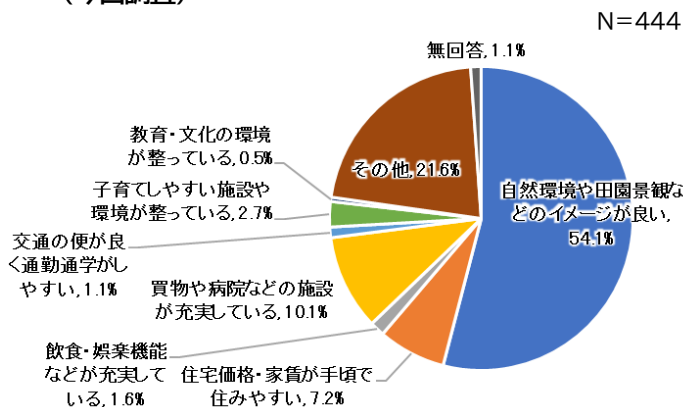
今後の定住意向については、「ずっと住み続けたい」、「どちらかといえば住み続けたい」の合計は、56.5%と、前回より 3.9 ポイント低くなっている。一方、「どちらかといえば住み続けたくない」、「転出したい」の合計は 12.9%で前回 14.6%から 1.7 ポイント減少している。



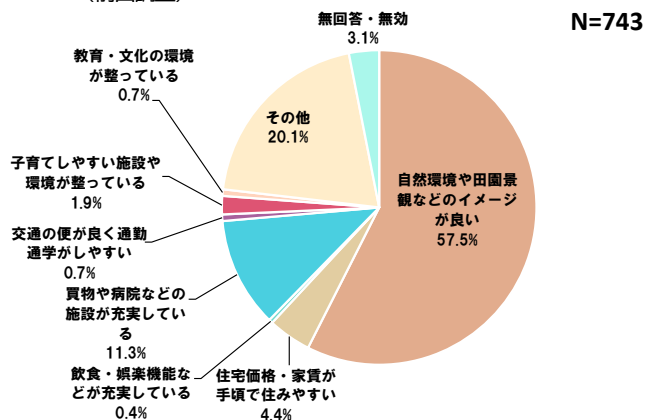
■住み続けたい理由

住み続けたい理由については、「自然環境や田園景観などのイメージが良い」が 54.1%で最も高く、次いで「その他」が 21.6%、「買物や病院などの施設が充実している」が 10.1%と続いている。また、「その他」の理由として「持家がある」「地元への愛着」が多く挙げられた。

(今回調査)



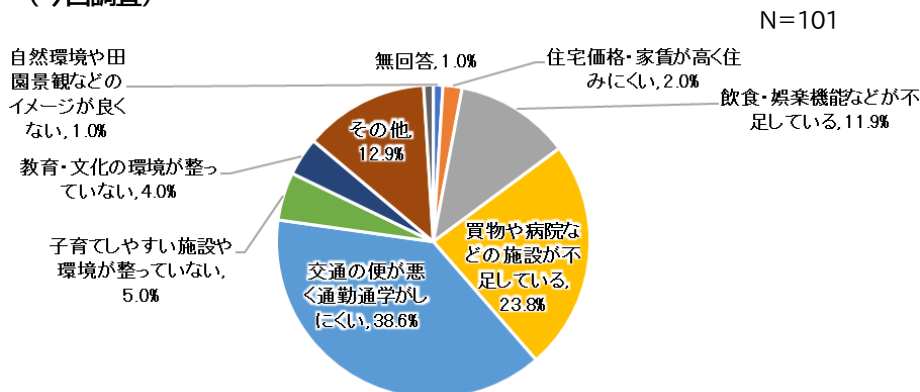
(前回調査)



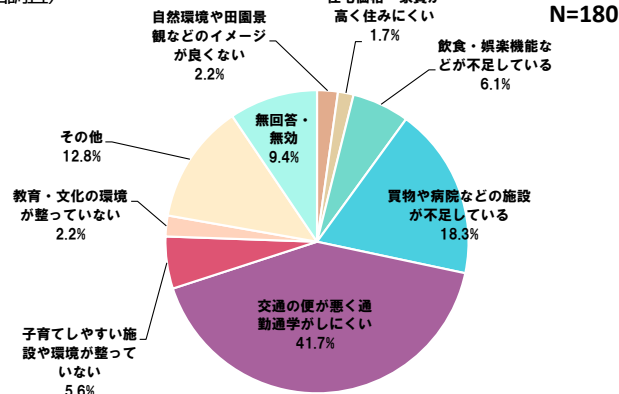
■住み続けたくない理由

住み続けたくない理由については、「交通の便が悪く通勤通学がしにくい」が 38.6%で最も高く、次いで「買物や病院などの施設が不足している」が 23.8%、「その他」が 12.9%と続いている。

(今回調査)



(前回調査)



2 角田市の取り組みについて

- 3つの重点プロジェクトのうち、最も効果があったものは「地域資源フル活用」で、最も重要度が高いものは「地域共生」である。
- 重要度の高い指標群「Ⅰ」には、「地域医療体制の充実」「公共交通システムの存続・利便性向上」「安全安心な道路網の整備」等があげられている。また、「企業立地の振興」「安定した雇用の確保」など産業振興の分野があげられている。
- 行政全体に対する満足度は、「満足している」が上昇し「不満である」を上回っている。

(1) 3つの重点プロジェクトの効果・重要度

目標とする都市像の実現に向けて戦略的に進めてきた3つの重点プロジェクトについて、「施策の効果」と「今後の重要度」の回答を次のとおり点数化して集計している。

施策評価は、それぞれのプロジェクトに対する「施策の効果」と「今後の重要度」の回答を点数化して表しており、効果・重要度の回答について、それぞれ「効果があった」・「重要である」を2点、「やや効果があった」・「やや重要である」を1点、「あまり効果がなかった」・「あまり重要でない」を-1点、「効果がなかった」・「重要でない」を-2点、「わからない」を0点として集計した。

$$\text{点数} = \frac{(\text{「効果あり(重要)」} \times 2 \text{点} + \text{「やや効果あり(やや重要)」} \times 1 \text{点} + \text{「効果低(重要性低)」} \times -1 \text{点} + \text{「効果なし(重要でない)」} \times -2 \text{点}) \times 50}{(\text{「効果あり(重要)」} \sim \text{効果なし(重要でない)」回答総数(無回答除く)}}$$

【「現在の満足度」と「今後の重要度」】

プロジェクト	施策の 効果 (点数)	今後の 重要度 (点数)	領域
1 市民力	-28.79	50.00	Ⅲ
2 地域共生	-14.71	56.62	Ⅰ
3 地域資源フル活用	0.00	55.88	Ⅱ
平 均	-14.50	54.17	

■重点プロジェクトの総合評価をみると、

施策の効果は-14.50 ポイント、今後の重要度は 54.17 ポイント

目標とする都市像の実現に向けて戦略的に進めてきた3つの重点プロジェクトについての「施策の効果」と「今後の重要度」の評価結果は、以下のとおりである。

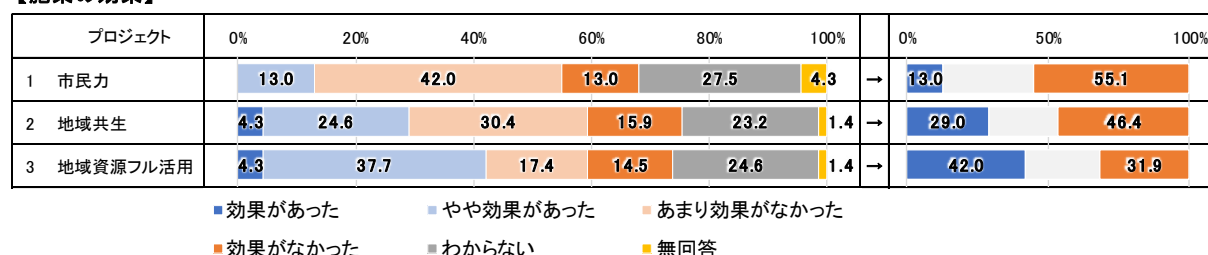
効果の平均点数は、-14.50 ポイントとなっている。プロジェクト別にみると、「地域資源フル活用」が最も高い。

重要度の平均点数は 54.17 ポイントとなっている。プロジェクト別にみると、「地域共生」が最も高い。

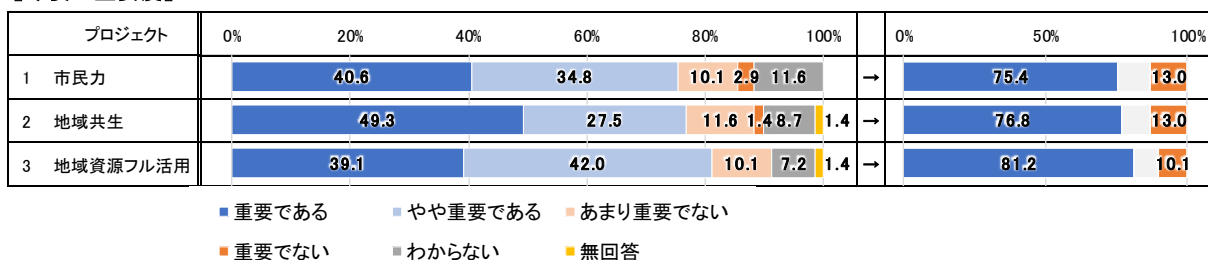
優先課題となる項目については、「地域医療体制の確立」の重要度が高く、満足度が著しく低い。

【重点プロジェクトの「施策の効果」、今後の重要度】

【施策の効果】



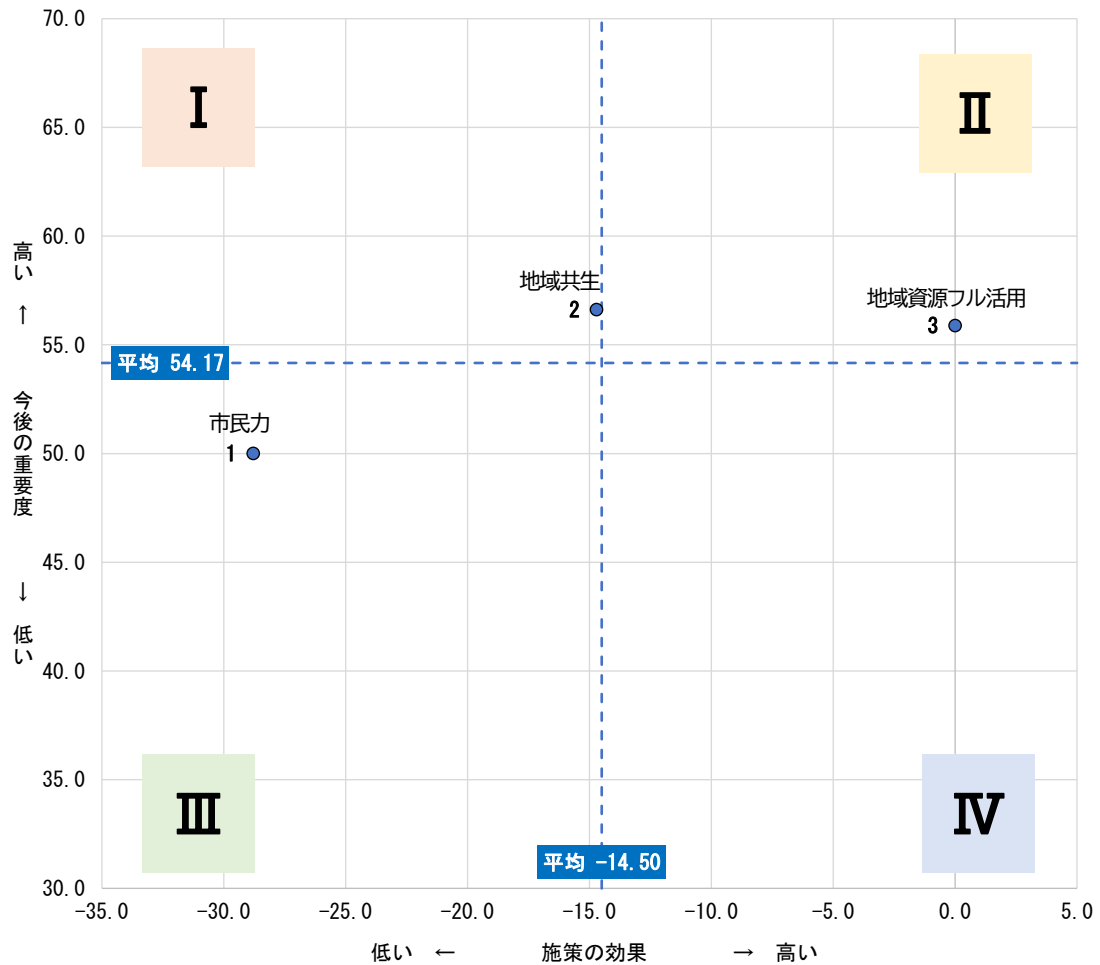
【今後の重要度】



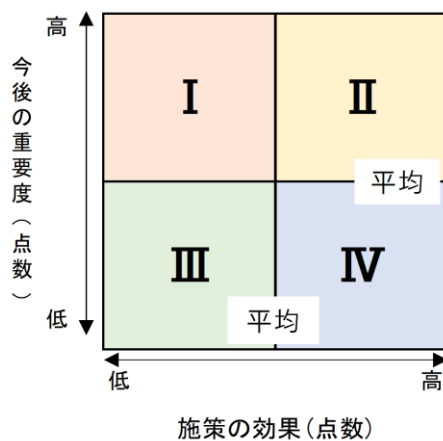
重点プロジェクトの施策の効果について、「効果があった」と「やや効果があった」を合わせた《効果あった》は『3地域資源フル活用』で 42.0%と最も多い一方、「効果がなかった」と「あまり効果がなかった」を合わせた《効果なかった》は『1市民力』で 55.0%と最も多くなっている。

重点プロジェクトの今後の重要度について、「重要である」と「やや重要である」を合わせた《重要》は『3地域資源フル活用』で 81.1%と最も多い。

【効果・重要度からみた重点プロジェクトの位置づけ】



※散布図中央に示す青の横線、縦線は、重要度、満足度の各々3要素の平均値を表している。



プロジェクト	施策の効果 (点数)	今後の重要度 (点数)	領域
1 市民力	-28.79	50.00	Ⅲ
2 地域共生	-14.71	56.62	Ⅰ
3 地域資源フル活用	0.00	55.88	Ⅱ
平均	-14.50	54.17	

- Ⅰ 領域: 施策の効果が低く、重要度が高い⇒優先的な対応が必要
- Ⅱ 領域: 施策の効果が高く、重要度も高い⇒重点的な対応の継続が必要
- Ⅲ 領域: 施策の効果が低く、重要度も低い⇒優先度は低いものの対応が必要
- Ⅳ 領域: 施策の効果が高く、重要度は低い⇒現在の対応の維持が必要

(2) 行政サービスの満足度・重要度

現行の第6次長期総合計画の前期基本計画に基づき進めている行政サービスについて、「満足度」と「重要度」を、46施策ごとに5段階評価で評価する。

施策評価は、46施策に対する「現在の満足度」と「今後の重要度」の回答を点数化して表しており、満足度・重要度の回答について、それぞれ「満足」・「重要である」を2点、「やや満足」・「やや重要である」を1点、「やや不満」・「あまり重要でない」を-1点、「不満」・「重要でない」を-2点、「わからない」を0点として集計した。

$$\text{点数} = \frac{(\text{「満足(重要)」} \times 2 \text{点} + \text{「やや満足(やや重要)」} \times 1 \text{点} + \text{「やや不満(あまり重要でない)」} \times -1 \text{点} + \text{「不満(重要でない)」} \times -2 \text{点}) \times 50}{(\text{「満足(重要)」} \sim \text{「不満(重要でない)」} \text{回答総数(無回答除く)})}$$

満足度の平均点数は1.48ポイントとなっており、施策の分類別には、「安全・安心」の満足度が一番高く、「教育・文化・スポーツ」、「行財政経営」の順に満足度が比較的高い。

一方、「都市基盤・生活環境」に対する満足度は-4.60ポイントと最も低い。

重要度は、平均が57.97ポイントとなっている。施策の分類別にみると、高い値となっているのは「安全・安心」や「保健・医療・福祉」、「都市基盤・生活環境」である。一方、重要度が比較的低いのは「まちづくり」、「行財政経営」である。

満足度と重要度の差が一番大きいのは「都市基盤・生活環境」、次に「保健・医療・福祉」となっており、今後重点的に施策展開する必要がある。

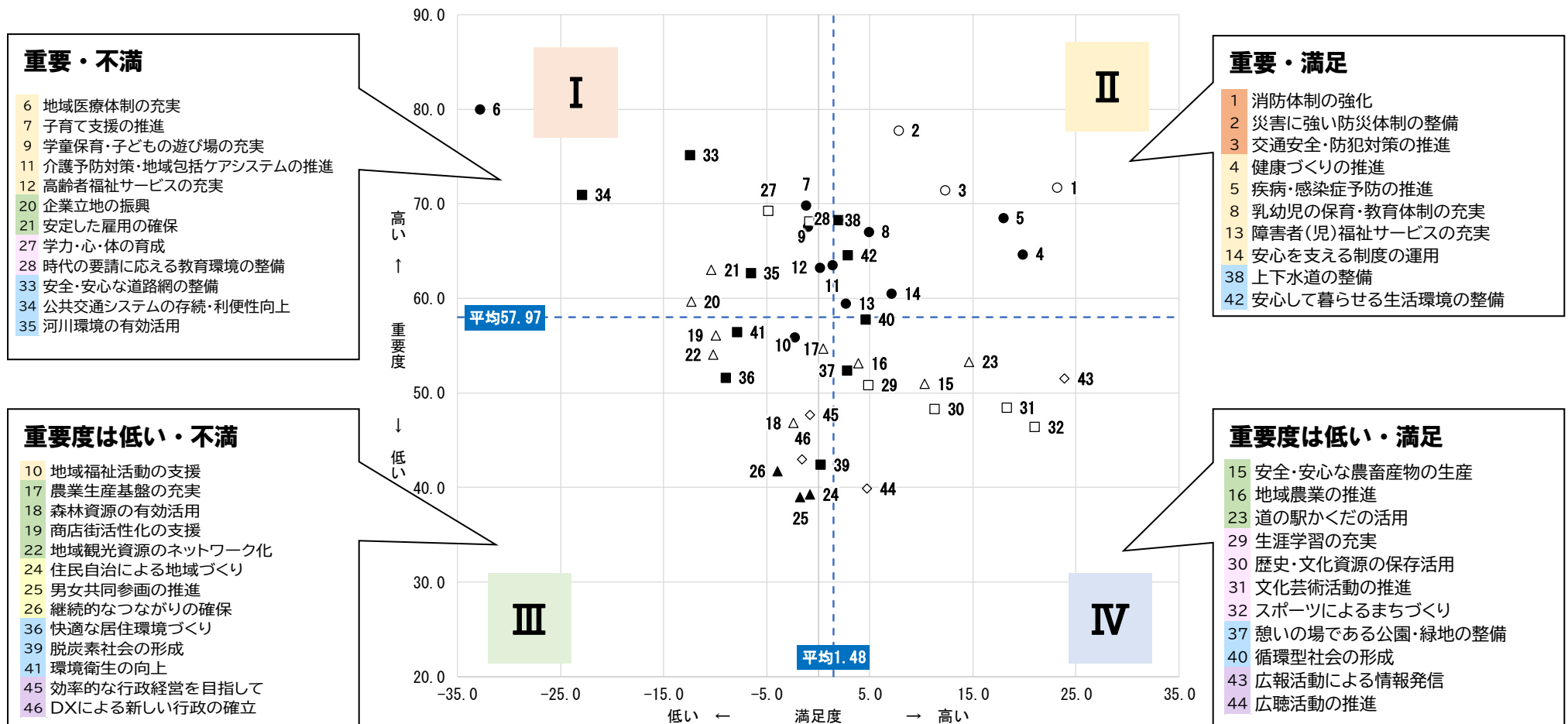
【「現在の満足度」と「今後の重要度」】

施策の分類	満足度(A)	重要度(B)	(A)(B)の差
安全・安心	14.46	73.59	59.13
保健・医療・福祉	1.52	65.46	63.94
産業振興・就労	-1.74	54.59	56.33
まちづくり	-2.14	39.96	42.10
教育・文化・スポーツ	8.31	55.19	46.88
都市基盤・生活環境	-4.60	60.17	64.77
行財政経営	6.59	45.48	38.89
平 均※	1.48	57.97	56.49

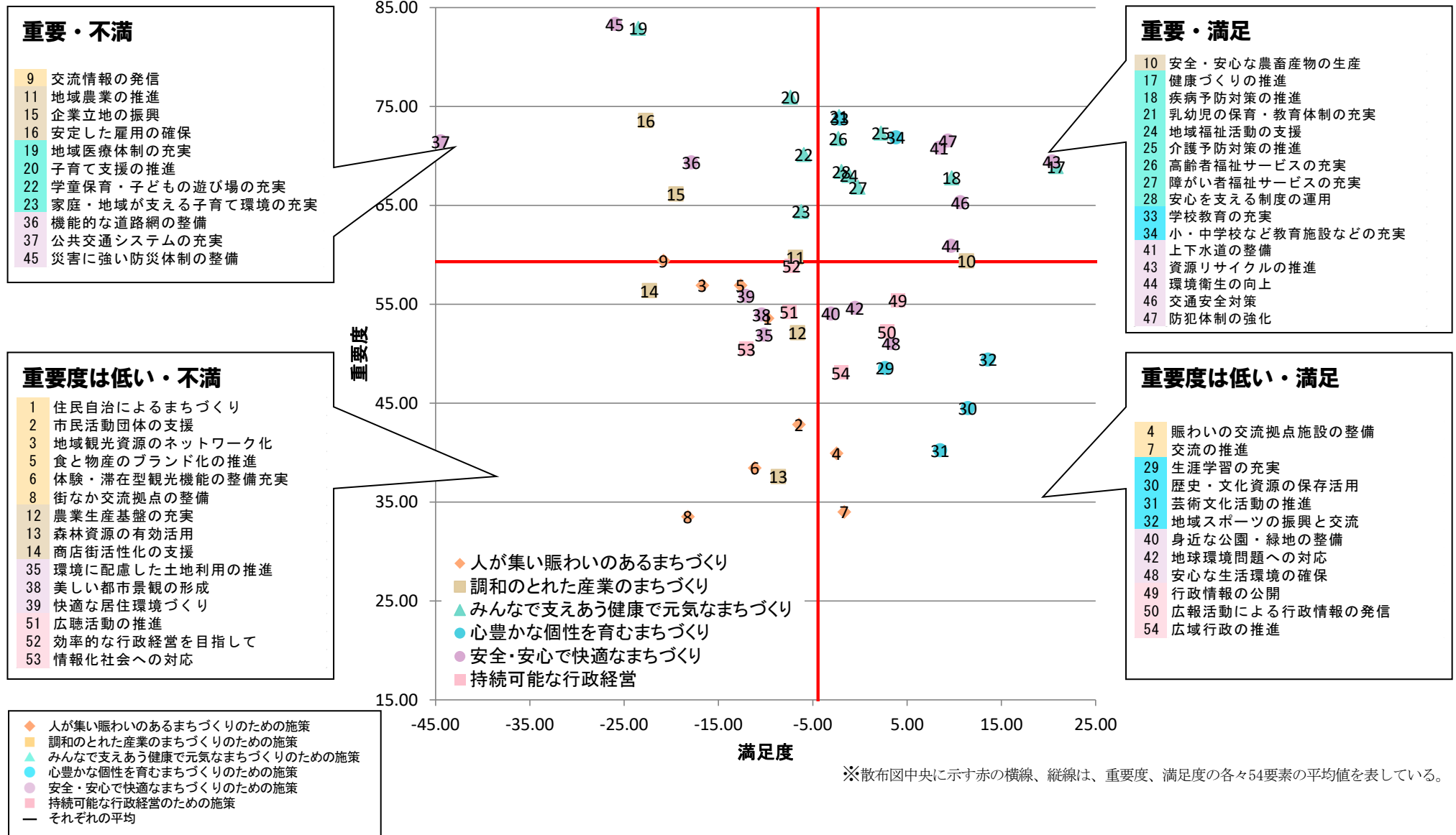
※平均は、46指標の満足度、重要度の平均値である。

分野	施策	満足度 (点数)	重要度 (点数)	領域
1. 安全安心	1 消防体制の強化	23.20	71.65	Ⅱ
	2 災害に強い防災体制の整備	7.81	77.73	Ⅱ
	3 交通安全・防犯対策の推進	12.35	71.38	Ⅱ
2. 保健・医療・福祉	4 健康づくりの推進	19.86	64.66	Ⅱ
	5 疾病・感染症予防の推進	17.95	68.46	Ⅱ
	6 地域医療体制の充実	-32.81	79.95	Ⅰ
	7 子育て支援の推進	-1.17	69.82	Ⅰ
	8 乳幼児の保育・教育体制の充実	4.91	67.02	Ⅱ
	9 学童保育・子どもの遊び場の充実	-0.98	67.59	Ⅰ
	10 地域福祉活動の支援	-2.31	55.89	Ⅲ
	11 介護予防対策・地域包括ケアシステムの推進	1.38	63.53	Ⅰ
	12 高齢者福祉サービスの充実	0.13	63.26	Ⅰ
	13 障害者（児）福祉サービスの充実	2.68	59.42	Ⅱ
	14 安心を支える制度の運用	7.12	60.46	Ⅱ
3. 産業振興・就労	15 安全・安心な農畜産物の生産	10.34	50.92	Ⅳ
	16 地域農業の推進	3.91	53.08	Ⅳ
	17 農業生産基盤の充実	0.53	54.62	Ⅲ
	18 森林資源の有効活用	-2.38	46.78	Ⅲ
	19 商店街活性化の支援	-9.93	56.06	Ⅲ
	20 企業立地の振興	-12.32	59.60	Ⅰ
	21 安定した雇用の確保	-10.33	62.95	Ⅰ
	22 地域観光資源のネットワーク化	-10.15	54.02	Ⅲ
	23 道の駅かくだの活用	14.66	53.27	Ⅳ
4. まちづくり	24 住民自治による地域づくり	-0.79	39.24	Ⅲ
	25 男女共同参画の推進	-1.72	38.94	Ⅲ
	26 継続的なつながりの確保	-3.91	41.71	Ⅲ
5. 教育・文化・スポーツ	27 学力・心・体の育成	-4.83	69.20	Ⅰ
	28 時代の要請に応える教育環境の整備	-0.86	68.11	Ⅰ
	29 生涯学習の充実	4.88	50.80	Ⅳ
	30 歴史・文化資源の保存活用	11.34	48.26	Ⅳ
	31 文化芸術活動の推進	18.30	48.40	Ⅳ
	32 スポーツによるまちづくり	21.04	46.34	Ⅳ
6. 都市基盤・生活環境	33 安全・安心な道路網の整備	-12.42	75.10	Ⅰ
	34 公共交通システムの存続・利便性向上	-22.87	70.90	Ⅰ
	35 河川環境の有効活用	-6.53	62.62	Ⅰ
	36 快適な居住環境づくり	-8.95	51.59	Ⅲ
	37 憩いの場である公園・緑地の整備	2.83	52.32	Ⅳ
	38 上下水道の整備	1.97	68.24	Ⅱ
	39 脱炭素社会の形成	0.26	42.34	Ⅲ
	40 循環型社会の形成	4.60	57.73	Ⅳ
	41 環境衛生の向上	-7.84	56.38	Ⅲ
	42 安心して暮らせる生活環境の整備	2.90	64.49	Ⅱ
7. 行財政経営	43 広報活動による情報発信	23.92	51.46	Ⅳ
	44 広聴活動の推進	4.76	39.84	Ⅳ
	45 効率的な行政経営を目指して	-0.80	47.65	Ⅲ
	46 DXによる新しい行政の確立	-1.52	42.95	Ⅲ
平 均		1.48	57.97	

【満足度・重要度からみた各主要施策の位置づけ】



【満足度・重要度からみた各主要施策の位置づけ】（前回調査 R2. 8 月）



【満足度（点数）のランキング】

今回調査【R6】

順位	施策	点数
1位	43 広報活動による情報発信	23.92
2位	1 消防体制の強化	23.20
3位	32 スポーツによるまちづくり	21.04
4位	4 健康づくりの推進	19.86
5位	31 文化芸術活動の推進	18.30
6位	5 疾病・感染症予防の推進	17.95
7位	23 道の駅かくたの活用	14.66
8位	3 交通安全・防犯対策の推進	12.35
9位	30 歴史・文化資源の保存活用	11.34
10位	15 安全・安心な農畜産物の生産	10.34
11位	2 災害に強い防災体制の整備	7.81
12位	14 安心を支える制度の運用	7.12
13位	8 乳幼児の保育・教育体制の充実	4.91
14位	29 生涯学習の充実	4.88
15位	44 広聴活動の推進	4.76
16位	40 循環型社会の形成	4.60
17位	16 地域農業の推進	3.91
18位	42 安心して暮らせる生活環境の整備	2.90
19位	37 憩いの場である公園・緑地の整備	2.83
20位	13 障害者（児）福祉サービスの充実	2.68
21位	38 上下水道の整備	1.97
22位	11 介護予防対策・地域包括ケアシステムの推進	1.38
23位	17 農業生産基盤の充実	0.53
24位	39 脱炭素社会の形成	0.26
25位	12 高齢者福祉サービスの充実	0.13
26位	24 住民自治による地域づくり	-0.79
27位	45 効率的な行政経営を目指して	-0.80
28位	28 時代の要請に応える教育環境の整備	-0.86
29位	9 学童保育・子どもの遊び場の充実	-0.98
30位	7 子育て支援の推進	-1.17
31位	46 DXによる新しい行政の確立	-1.52
32位	25 男女共同参画の推進	-1.72
33位	10 地域福祉活動の支援	-2.31
34位	18 森林資源の有効活用	-2.38
35位	26 継続的なつながりの確保	-3.91
36位	27 学力・心・体の育成	-4.83
37位	35 河川環境の有効活用	-6.53
38位	41 環境衛生の向上	-7.84
39位	36 快適な居住環境づくり	-8.95
40位	19 商店街活性化の支援	-9.93
41位	22 地域観光資源のネットワーク化	-10.15
42位	21 安定した雇用の確保	-10.33
43位	20 企業立地の振興	-12.32
44位	33 安全・安心な道路網の整備	-12.42
45位	34 公共交通システムの存続・利便性向上	-22.87
46位	6 地域医療体制の充実	-32.81

前回調査【R2】

順位	施策	点数
1位	健康づくりの推進	20.79
2位	資源リサイクルの推進	20.38
3位	地域スポーツの振興と交流	13.59
4位	歴史・文化資源の保存活用	11.44
5位	安全・安心な農畜産物の生産	11.31
6位	交通安全対策	10.65
7位	疾病予防対策の推進	9.74
8位	環境衛生の向上	9.68
9位	防犯体制の強化	9.34
10位	芸術文化活動の推進	8.52
11位	上下水道の整備	8.44
12位	行政情報の公開	4.03
13位	小・中学校など教育施設などの充実	3.82
14位	安心な生活環境の確保	3.33
15位	広報活動による行政情報の発信	2.86
16位	生涯学習の充実	2.66
17位	介護予防対策の推進	2.22
18位	障がい者福祉サービスの充実	-0.21
19位	地球環境問題への対応	-0.51
20位	地域福祉活動の支援	-1.16
21位	交流の推進	-1.66
22位	安心を支える制度の運用	-1.96
23位	広域行政の推進	-2.01
24位	学校教育の充実	-2.10
25位	乳幼児の保育・教育体制の充実	-2.22
26位	高齢者福祉サービスの充実	-2.30
27位	賑わいの交流拠点施設の整備	-2.49
28位	身近な公園・緑地の整備	-3.09
29位	学童保育・子どもの遊び場の充実	-5.96
30位	家庭・地域が支える子育て環境の充実	-6.23
31位	市民活動団体の支援	-6.47
32位	農業生産基盤の充実	-6.61
33位	地域農業の推進	-6.83
34位	効率的な行政経営を目指して	-7.22
35位	子育て支援の推進	-7.37
36位	広聴活動の推進	-7.49
37位	森林資源の有効活用	-8.65
38位	住民自治によるまちづくり	-9.80
39位	環境に配慮した土地利用の推進	-10.15
40位	美しい都市景観の形成	-10.41
41位	体験・滞在型観光機能の整備充実	-11.15
42位	情報化社会への対応	-12.03
43位	快適な居住環境づくり	-12.10
44位	食と物産のブランド化の推進	-12.66
45位	地域観光資源のネットワーク化	-16.71
46位	機能的な道路網の整備	-17.88
47位	街なか交流拠点の整備	-18.25
48位	企業立地の振興	-19.50
49位	交流情報の発信	-20.83
50位	商店街活性化の支援	-22.31
51位	安定した雇用の確保	-22.70
52位	地域医療体制の充実	-23.51
53位	災害に強い防災体制の整備	-25.97
54位	公共交通システムの充実	-44.45

【重要度（点数）のランキング】

今回調査【R6】

順位	順位	点数
1位	6 地域医療体制の充実	79.95
2位	2 災害に強い防災体制の整備	77.73
3位	33 安全・安心な道路網の整備	75.10
4位	1 消防体制の強化	71.65
5位	3 交通安全・防犯対策の推進	71.38
6位	34 公共交通システムの存続・利便性向上	70.90
7位	7 子育て支援の推進	69.82
8位	27 学力・心・体の育成	69.20
9位	5 疾病・感染症予防の推進	68.46
10位	38 上下水道の整備	68.24
11位	28 時代の要請に応える教育環境の整備	68.11
12位	9 学童保育・子どもの遊び場の充実	67.59
13位	8 乳幼児の保育・教育体制の充実	67.02
14位	4 健康づくりの推進	64.66
15位	42 安心して暮らせる生活環境の整備	64.49
16位	11 介護予防対策・地域包括ケアシステムの推進	63.53
17位	12 高齢者福祉サービスの充実	63.26
18位	21 安定した雇用の確保	62.95
19位	35 河川環境の有効活用	62.62
20位	14 安心を支える制度の運用	60.46
21位	20 企業立地の振興	59.60
22位	13 障害者（児）福祉サービスの充実	59.42
23位	40 循環型社会の形成	57.73
24位	41 環境衛生の向上	56.38
25位	19 商店街活性化の支援	56.06
26位	10 地域福祉活動の支援	55.89
27位	17 農業生産基盤の充実	54.62
28位	22 地域観光資源のネットワーク化	54.02
29位	23 道の駅かくたの活用	53.27
30位	16 地域農業の推進	53.08
31位	37 憩いの場である公園・緑地の整備	52.32
32位	36 快適な居住環境づくり	51.59
33位	43 広報活動による情報発信	51.46
34位	15 安全・安心な農畜産物の生産	50.92
35位	29 生涯学習の充実	50.80
36位	31 文化芸術活動の推進	48.40
37位	30 歴史・文化資源の保存活用	48.26
38位	45 効率的な行政経営を目指して	47.65
39位	18 森林資源の有効活用	46.78
40位	32 スポーツによるまちづくり	46.34
41位	46 DXによる新しい行政の確立	42.95
42位	39 脱炭素社会の形成	42.34
43位	26 継続的なつながりの確保	41.71
44位	44 広聴活動の推進	39.84
45位	24 住民自治による地域づくり	39.24
46位	25 男女共同参画の推進	38.94

前回調査【R2】

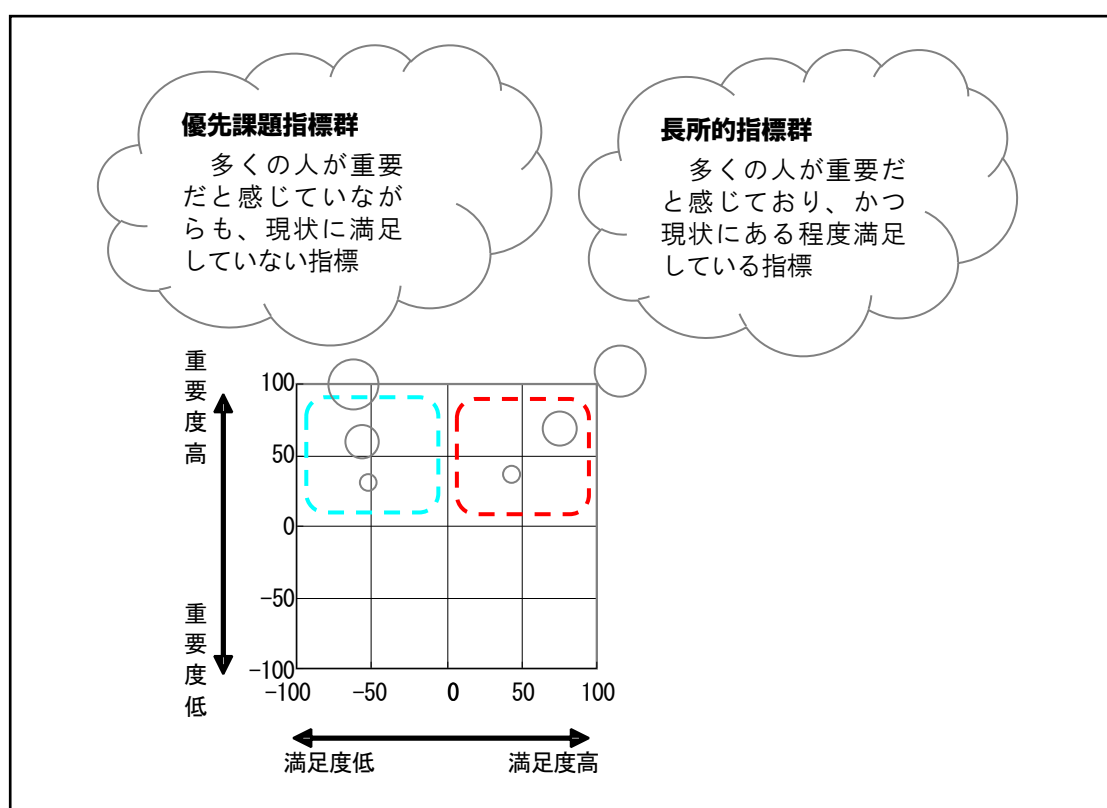
順位	順位	点数
1位	災害に強い防災体制の整備	83.32
2位	地域医療体制の充実	82.89
3位	子育て支援の推進	75.94
4位	乳幼児の保育・教育体制の充実	73.98
5位	学校教育の充実	73.75
6位	安定した雇用の確保	73.57
7位	介護予防対策の推進	72.31
8位	小・中学校など教育施設などの充実	71.87
9位	高齢者福祉サービスの充実	71.75
10位	防犯体制の強化	71.54
11位	公共交通システムの充実	71.47
12位	上下水道の整備	70.81
13位	学童保育・子どもの遊び場の充実	70.14
14位	資源リサイクルの推進	69.44
15位	機能的な道路網の整備	69.34
16位	健康づくりの推進	68.92
17位	安心を支える制度の運用	68.43
18位	地域福祉活動の支援	68.02
19位	疾病予防対策の推進	67.78
20位	障がい者福祉サービスの充実	66.82
21位	企業立地の振興	66.14
22位	交通安全対策	65.30
23位	家庭・地域が支える子育て環境の充実	64.38
24位	環境衛生の向上	60.90
25位	地域農業の推進	59.73
26位	交流情報の発信	59.41
27位	安全・安心な農畜産物の生産	59.37
28位	効率的な行政経営を目指して	58.85
29位	食と物産のブランド化の推進	56.90
30位	地域観光資源のネットワーク化	56.90
31位	商店街活性化の支援	56.36
32位	快適な居住環境づくり	55.84
33位	行政情報の公開	55.40
34位	地球環境問題への対応	54.62
35位	広聴活動の推進	54.24
36位	身近な公園・緑地の整備	54.06
37位	美しい都市景観の形成	53.96
38位	住民自治によるまちづくり	53.57
39位	広報活動による行政情報の発信	52.22
40位	農業生産基盤の充実	52.11
41位	環境に配慮した土地利用の推進	51.93
42位	安心な生活環境の確保	51.06
43位	情報化社会への対応	50.47
44位	地域スポーツの振興と交流	49.40
45位	生涯学習の充実	48.54
46位	広域行政の推進	48.08
47位	歴史・文化資源の保存活用	44.48
48位	市民活動団体の支援	42.83
49位	芸術文化活動の推進	40.24
50位	賑わいの交流拠点施設の整備	39.93
51位	体験・滞在型観光機能の整備充実	38.45
52位	森林資源の有効活用	37.56
53位	交流の推進	34.00
54位	街なか交流拠点の整備	33.52

(3) 施策分野別の満足度・重要度

各主要施策に対する満足度と重要度を点数化したものを、全体の最小値～最大値の幅で整理した。

下図に示すとおり、満足度と重要度の平均値をもとに、各主要施策の位置づけを整理した時に、市民の満足度が高く重要度も高い指標は『長所的指標群』と位置づけられ、今後も維持していくことが重要である。

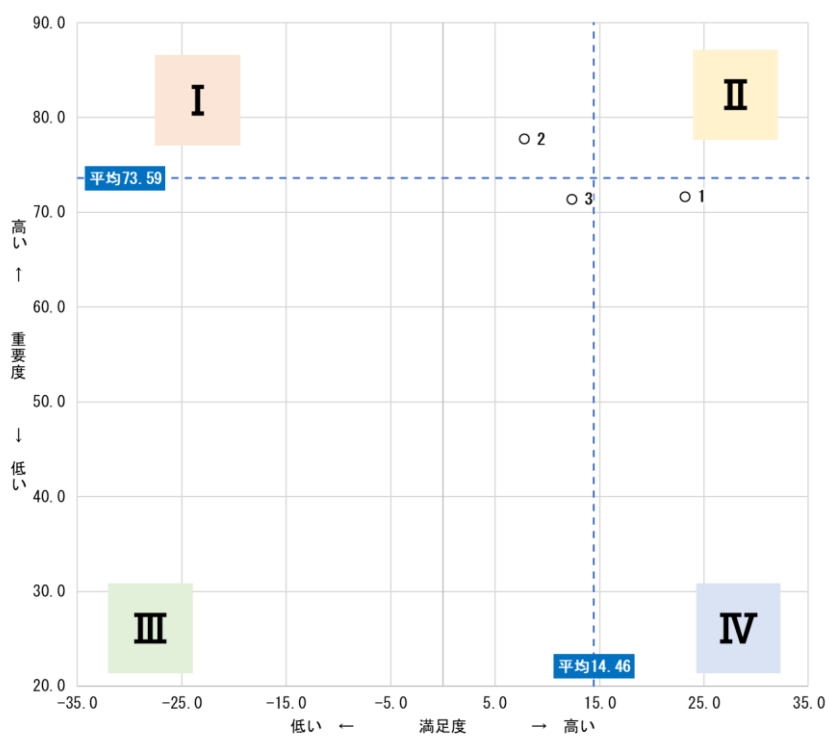
また、市民の満足度が低く重要度が高い指標は『優先課題指標群』と位置づけられ、これらの分類に該当する指標にどれだけ取り組み・実施できるかが、今後のまちづくりの中で特に重要となる。



i 安全・安心に関する施策

市民生活の安心・安全のため、消防体制の強化や災害に強い防災体制の整備、交通安全・防犯対策の推進に取り組んできた。安全・安心に関する施策についての重要度は、7つの施策の中で平均値が73.59ポイントと一番高い。その中で、「2 災害に強い防災体制の整備」の重要度が77.73ポイントと一番高く、続いて「1 消防体制の強化」、「3 交通安全・防犯対策の推進」と続く。重要度が高く、満足度が低い「2 災害に強い防災体制の整備」が優先課題指標群に入る。

【安全・安心に関する施策の満足度・重要度】



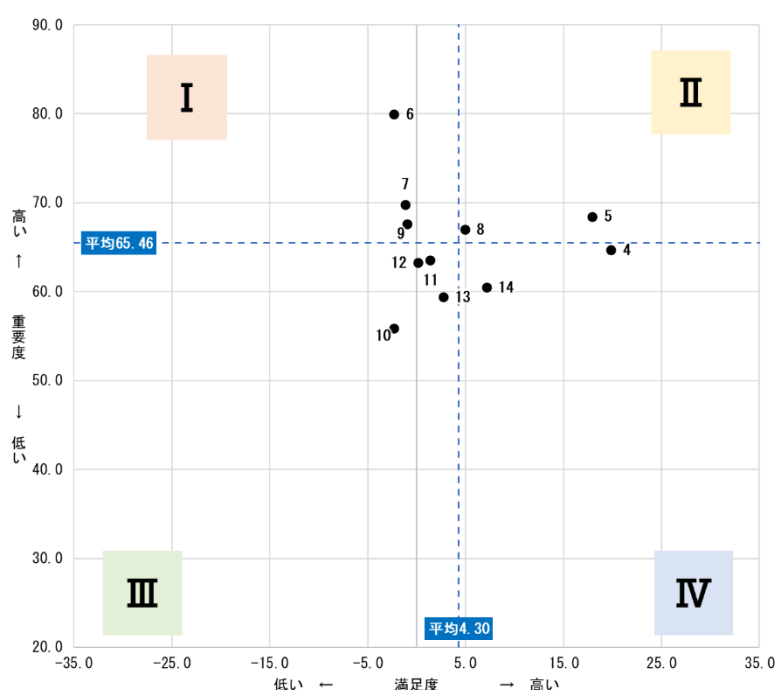
分野	施策	満足度 (点数)	重要度 (点数)
1. 安全安心	1 消防体制の強化	23.20	71.65
	2 災害に強い防災体制の整備	7.81	77.73
	3 交通安全・防犯対策の推進	12.35	71.38

ii 保健・医療・福祉に関する施策

各種検診の受診率向上による疫病の予防や市民が安心できる地域医療体制の充実など保健・医療の充実、子育て世帯への経済的支援や乳幼児保育サービスの拡充など子育てしやすい環境づくり、高齢者や障がいのある人など誰もが安心して暮らすことの出来る福祉社会の形成に取り組んできた。

重要度の平均値は 65.46 ポイントと 7 つの施策で 2 番目に高く、その中でも「6 地域医療体制の充実」の重要度が 79.95 ポイントと高く満足度が低いことから、最重要施策となりうる。「7 子育て支援の推進」「9 学童保育・子どもの遊び場の充実」も優先課題指標群に入る。

【保健・医療・福祉に関する施策の満足度・重要度】



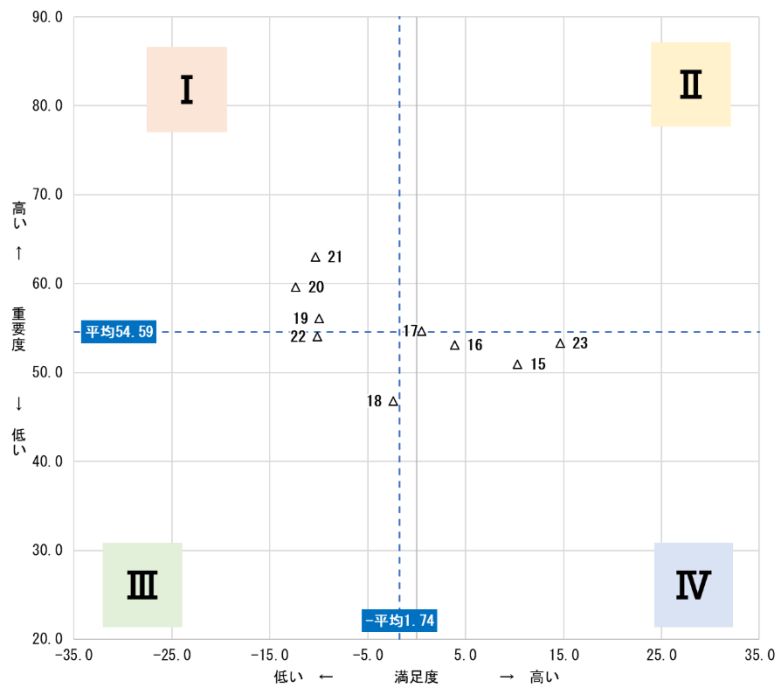
分野	施策	満足度 (点数)	重要度 (点数)
2. 保健・医療・福祉	4 健康づくりの推進	19.86	64.66
	5 疾病・感染症予防の推進	17.95	68.46
	6 地域医療体制の充実	-32.81	79.95
	7 子育て支援の推進	-1.17	69.82
	8 乳幼児の保育・教育体制の充実	4.91	67.02
	9 学童保育・子どもの遊び場の充実	-0.98	67.59
	10 地域福祉活動の支援	-2.31	55.89
	11 介護予防対策・地域包括ケアシステムの推進	1.38	63.53
	12 高齢者福祉サービスの充実	0.13	63.26
	13 障害者（児）福祉サービスの充実	2.68	59.42
	14 安心を支える制度の運用	7.12	60.46

iii 産業振興・就労に関する施策

安心・安全な農畜産物の生産の支援をはじめとした活力ある農林業の振興、中心市街地の活性化や経済・産業活動を営む市内立地企業への支援や広域幹線 道路網の整備・拡充による新たな企業立地戦略の検討など商工業の活性化に取り組んできた。

重要度はそれほど高くないが、「21 安定した雇用の確保」「20 企業立地の振興」「19 商店街活性化の支援」が優先課題指標群となっている。

【産業振興・就労に関する施策の満足度・重要度】

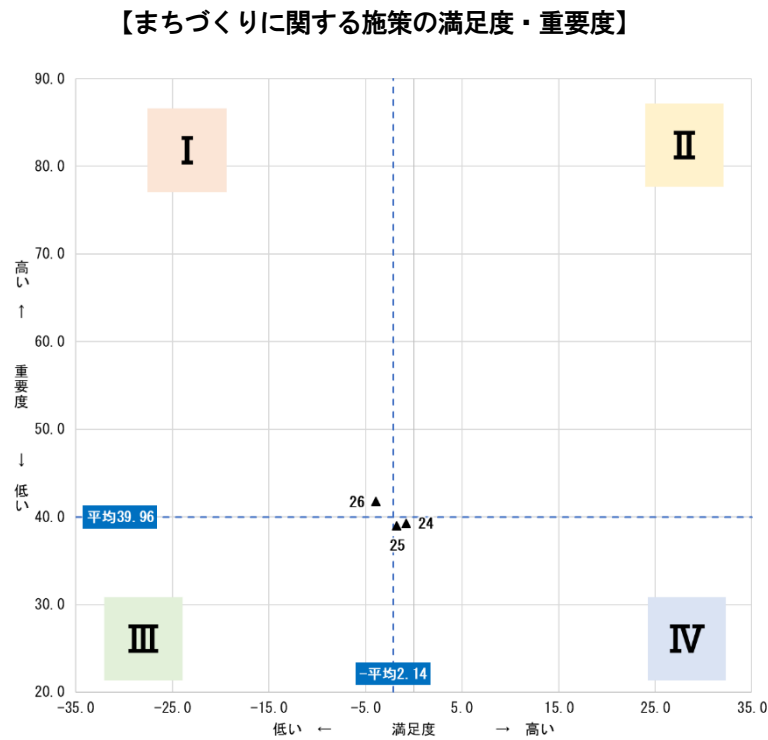


分野	施策	満足度 (点数)	重要度 (点数)
3. 産業振興・就労	15 安全・安心な農畜産物の生産	10.34	50.92
	16 地域農業の推進	3.91	53.08
	17 農業生産基盤の充実	0.53	54.62
	18 森林資源の有効活用	-2.38	46.78
	19 商店街活性化の支援	-9.93	56.06
	20 企業立地の振興	-12.32	59.60
	21 安定した雇用の確保	-10.33	62.95
	22 地域観光資源のネットワーク化	-10.15	54.02
	23 道の駅かくだの活用	14.66	53.27

iv まちづくりに関する施策

市民が主体的に考え取り組む行動力を醸成し、様々な主体と連携・協働することによってまちの魅力を高め、地域課題解決と担い手の確保が図られる仕組み作りに取り組むとともに、女性活躍の推進、若い世代の育成を通し「市民が主役のまちづくり」に取り組んできた。

重要度の平均値は 39.96 ポイントと低く、「26 継続的なつながりの確保」が優先課題指標群となっている。

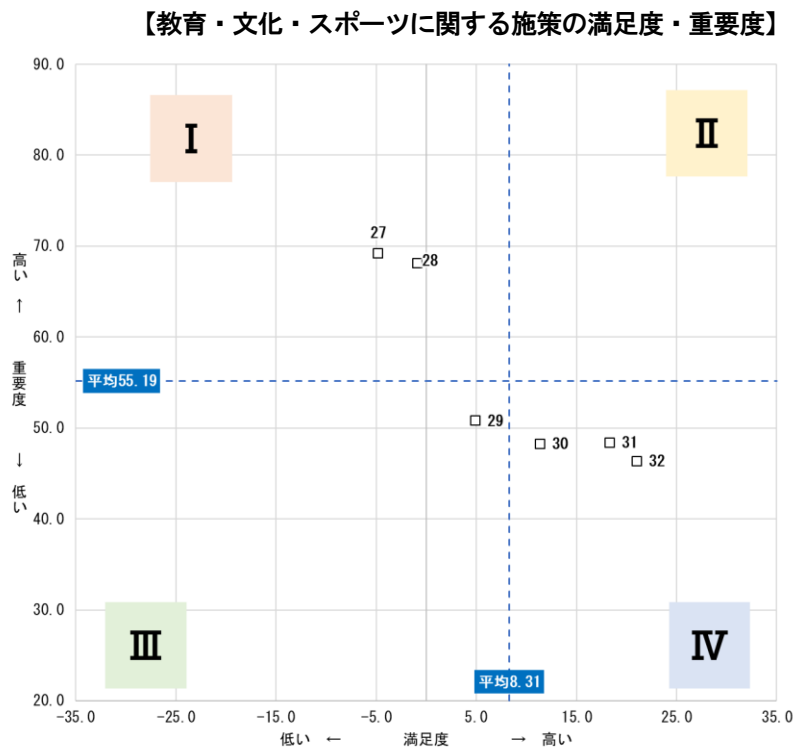


分野	施策	満足度 (点数)	重要度 (点数)
4. まちづくり	24 住民自治による地域づくり	-0.79	39.24
	25 男女共同参画の推進	-1.72	38.94
	26 継続的なつながりの確保	-3.91	41.71

v 教育・文化・スポーツに関する施策

児童生徒の学力向上、健やかな心・体の育成 をすることで、未来を生き抜くための教育環境づくりを行うとともに、文化芸術活動の推進やスポーツによるまちづくり（アクティブシティかくだ）など、人生 100 年時代 を見据えた生涯学習の推進に取り組んできた。

重要度の平均値は 55.19 ポイントと高くはないが、「27 学力・心・体の育成」「28 時代の要請に応える教育環境の整備」が優先課題指標群となっている。この 2 つは満足度も低いため、教育・文化・スポーツの分野では重要課題となりえる。



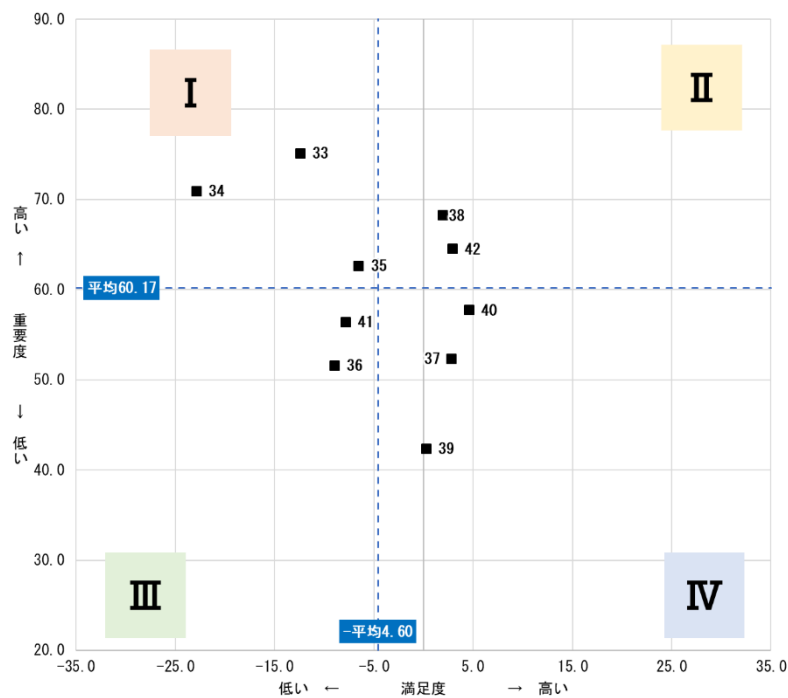
分野	施策	満足度 (点数)	重要度 (点数)
5. 教育・文化・スポーツ	27 学力・心・体の育成	-4.83	69.20
	28 時代の要請に応える教育環境の整備	-0.86	68.11
	29 生涯学習の充実	4.88	50.80
	30 歴史・文化資源の保存活用	11.34	48.26
	31 文化芸術活動の推進	18.30	48.40
	32 スポーツによるまちづくり	21.04	46.34

vi 都市基盤・生活環境に関する施策

広域幹線道路網の整備など良好な都市基盤や市民の健康で潤いのある暮らしに向けた快適な住環境の整備、また脱炭素社会の実現や循環型社会の形成を目指し、市民が安心して暮らせる生活環境の整備に取り組んできた。

重要度の平均値は 60.17 ポイントだが、「33 安全・安心な道路網の整備」75.10 ポイント、「公共交通システムの存続・利便性向上」は70.90 ポイントと全体での3位と6位に入っている。この2つの施策と「河川環境の有効活用」が優先課題指標群となっている。

【都市基盤・生活環境に関する施策の満足度・重要度】



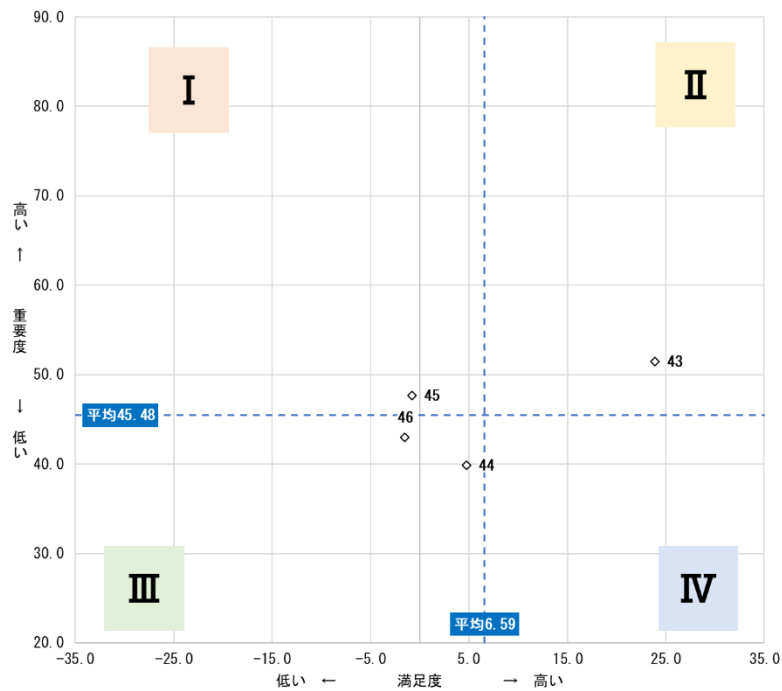
分野	施策	満足度 (点数)	重要度 (点数)
6. 都市基盤・生活環境	33 安全・安心な道路網の整備	-12.42	75.10
	34 公共交通システムの存続・利便性向上	-22.87	70.90
	35 河川環境の有効活用	-6.53	62.62
	36 快適な居住環境づくり	-8.95	51.59
	37 憩いの場である公園・緑地の整備	2.83	52.32
	38 上下水道の整備	1.97	68.24
	39 脱炭素社会の形成	0.26	42.34
	40 循環型社会の形成	4.60	57.73
	41 環境衛生の向上	-7.84	56.38
	42 安心して暮らせる生活環境の整備	2.90	64.49

vii 行財政経営に関する施策

市民にわかりやすい行政情報の公開・充実・発信やまちづくり懇談会・まちづくりカフェなどによる市民に開かれた行政を目指すとともに、事業の点検と見直しを繰り返し行い、市民にとって真に必要な行政サービスを最小のコストで提供するなど、時代に即応した行政経営に取り組んできた。

重要度はあまり高くないが、「43 広報活動による情報発信」が前回に比べ満足度が上がっている。「45 効率的な行政経営を目指して」が優先課題指標群となっている。

【行財政経営に関する施策の満足度・重要度】



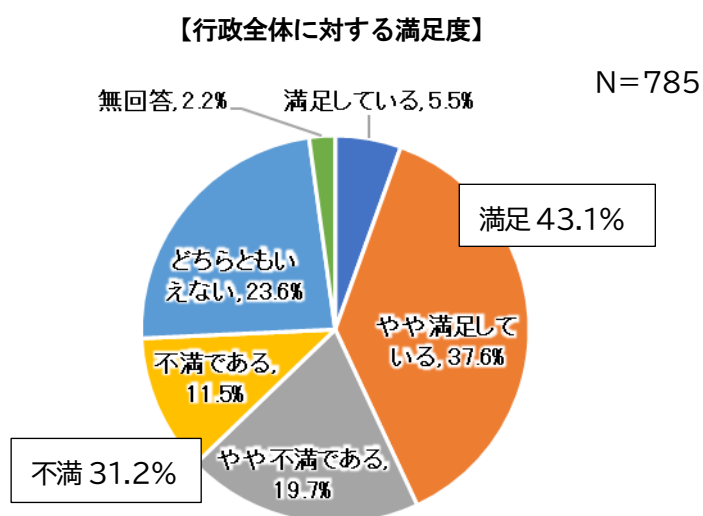
分野	施策	満足度 (点数)	重要度 (点数)
7. 行財政経営	43 広報活動による情報発信	23.92	51.46
	44 広聴活動の推進	4.76	39.84
	45 効率的な行政経営を目指して	-0.80	47.65
	46 DXによる新しい行政の確立	-1.52	42.95

(4) 行政全体に対する満足度

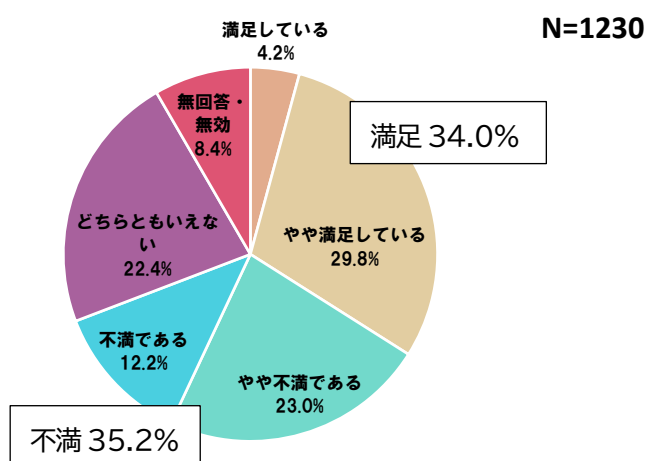
■行政全体に対する満足度は満足が 43.1%、不満度が 31.2%、満足度は上昇

行政全体に対する満足度は、満足(「満足している」と「やや満足している」の合計)が 43.1%、不満(「不満である」と「やや不満である」の合計)が 31.2%となっており、「満足している」と感じている人が「不満である」と感じている人を上回っている。

前回調査に比べると、「満足している」は 9.1 ポイント上がり、「不満である」が 4 ポイント低くなっている。



【行政全体に対する満足度】(前回調査)



3 これからのまちづくりの課題と方向性について

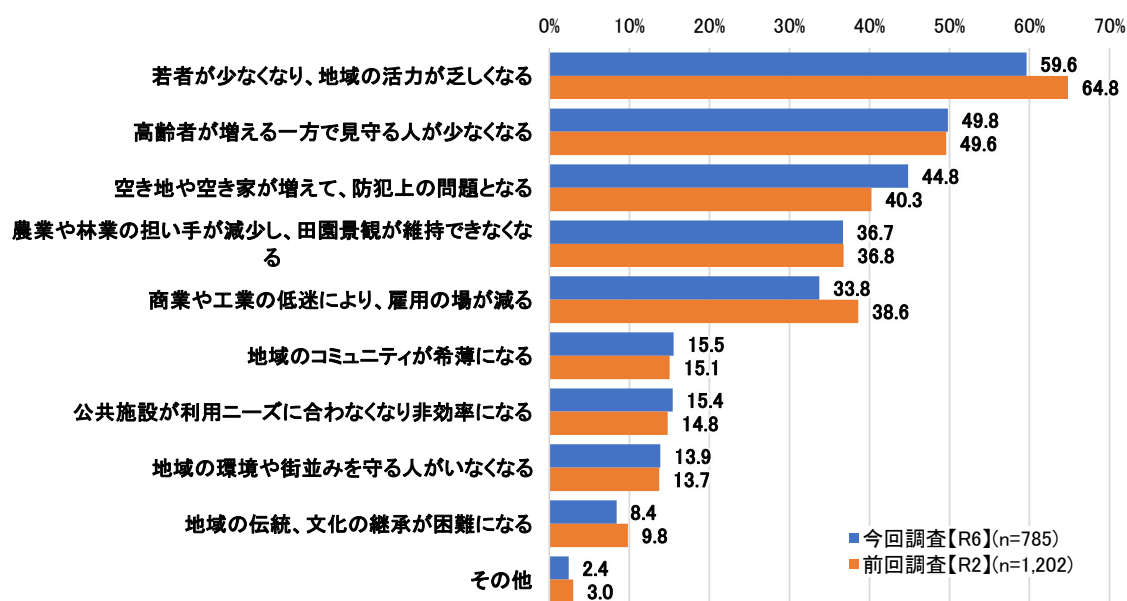
- 「人口が減少した際の課題」については、「若者の減少・地域の活力の低下」及び「高齢者の独居問題」「空き地や空き家が増える」の回答数が多い。
- 「人口を減少させないための施策」については、「結婚や子育ての経済的負担の軽減」及び「雇用の場の確保」の回答数が多い。

(1) 人口が減少した際の課題

人口が減少し高齢化がさらに進む今後 10 年の課題については、「若者が少なくなり、地域の活力が乏しくなる」が 59.6%と、最も高い。次いで「高齢者が増える一方で見守る人が少なくなる」が 49.8%、「空き地や空き家が増えて、防犯上の問題となる」が 44.8%となっている。

前回調査（R2）と今回調査（R6）には大きな差異はみられない。

【人口が減少した際の課題/前回調査との比較】



注) 複数回答（3 個選択式）、 得票率は下式で算出

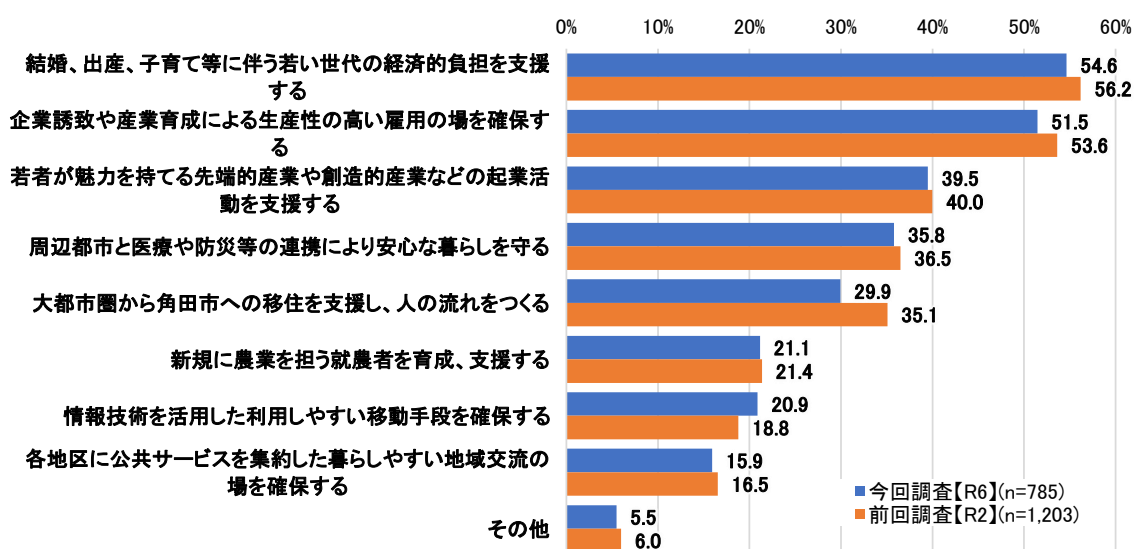
$$(\text{得票率}) = (\text{有効回答数}) \div (\text{有効回答者数}) \times 100$$

(2) 人口を減少させないための施策

人口を減少させないための施策については、「結婚、出産、子育て等に伴う若い世代の経済的負担を支援する」が 54.6%と、最も高い。次いで「企業誘致や産業育成による生産性の高い雇用の場を確保する」が 51.5%、「若者が魅力を持てる先端的産業や創造的産業などの起業活動を支援する」が 39.5%となっている。

前回調査（R2）と今回調査（R6）には大きな差異はみられない。

【人口を減少させないための施策/前回調査との比較】



注) 複数回答（3 個選択式） 得票率は下式で算出

$$(\text{得票率}) = (\text{有効回答数}) \div (\text{有効回答者数}) \times 100$$

【人口を減少させないための施策/その他の内容】

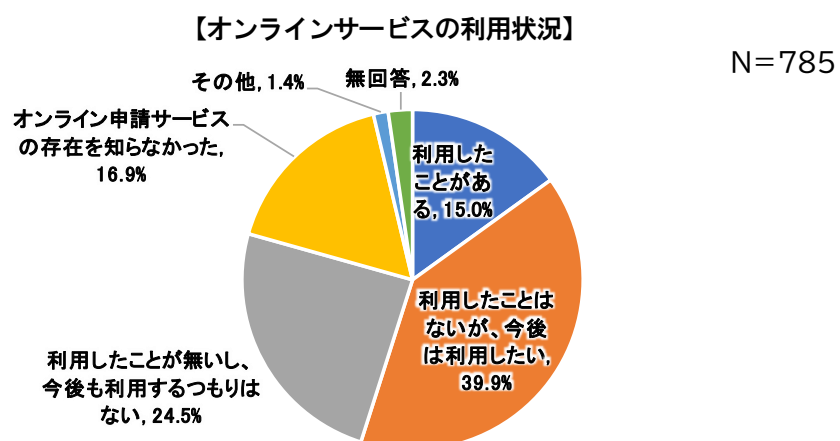
- ・ 交通の便の改善
- ・ 商業施設・娯楽施設の充実
- ・ 医療・子育て支援
- ・ 教育・文化の充実: など

4 デジタル化の推進について

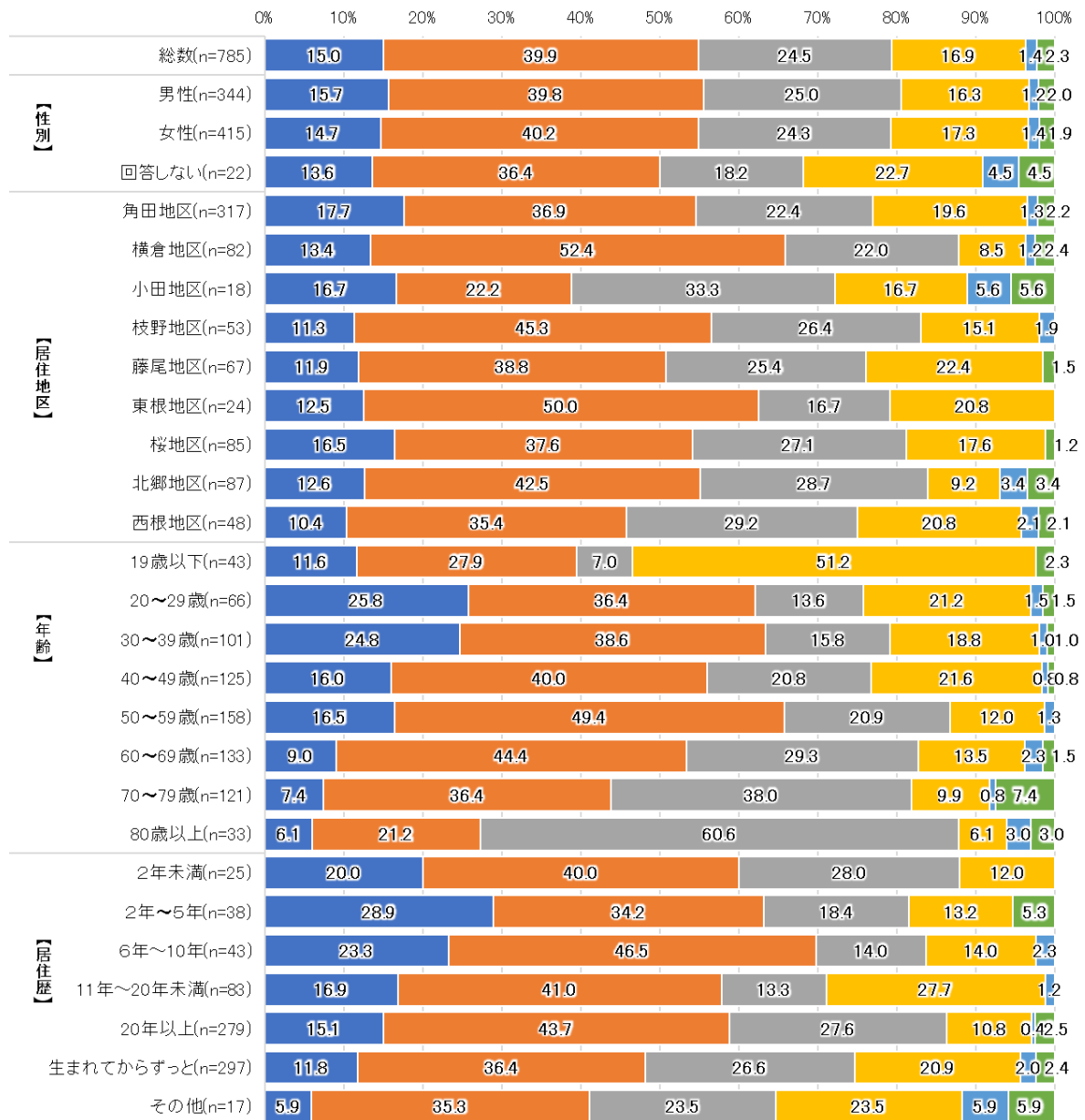
(1) オンライン申請サービスの利用状況

「利用したことがある」15.0%、に対し「利用した事が無いし、今後も利用するつもりはない」24.5%と、オンライン化してもサービスを利用しない方が一定数存在する。「利用したことはないが、今後は利用したい」39.9%、「オンライン申請サービスの存在を知らなかった」16.9%の順となっている。

男女別での差異はほとんどなかったが、年齢別にみると年齢が高くなるにつれ、「利用した事が無いし、今後も利用するつもりはない」の割合が多くなり、『80 歳以上』では60.6%と最も多い。また『19 歳以下』では「オンライン申請サービスの存在を知らなかった」が51.2%と最も多い。



【市のオンライン申請サービスの利用の有無/属性別】

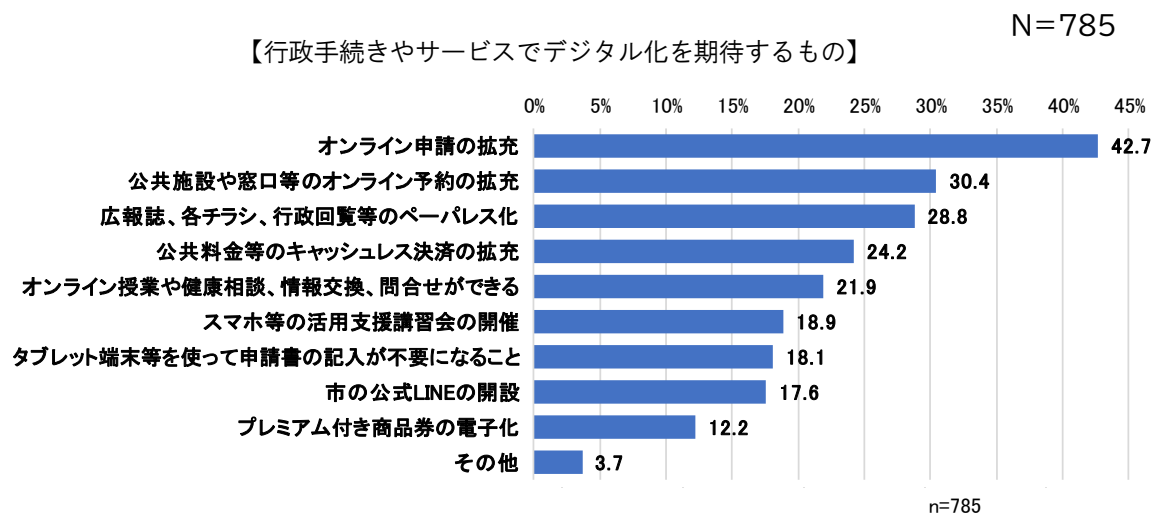


- 利用したことがある
- 利用したことはないが、今後は利用したい
- 利用したことが無いし、今後も利用するつもりはない
- オンライン申請サービスの存在を知らなかった
- その他
- 無回答

(2) デジタル化を期待する行政手続きや行政サービス

「オンライン申請の拡充」42.7%、「公共施設や窓口等のオンライン予約の拡充」30.4%、「広報誌、各チラシ、行政回覧等のペーパーレス化」28.8%の順となっている。

年齢別にみると『19 歳以下』では「公共料金等のキャッシュレス決済の拡充」、『70 歳～79 歳』では「スマホ等の活用支援講習会の開催」、『80 歳以上』では「広報誌、各チラシ、行政回覧等のペーパーレス化」が1位になっている。



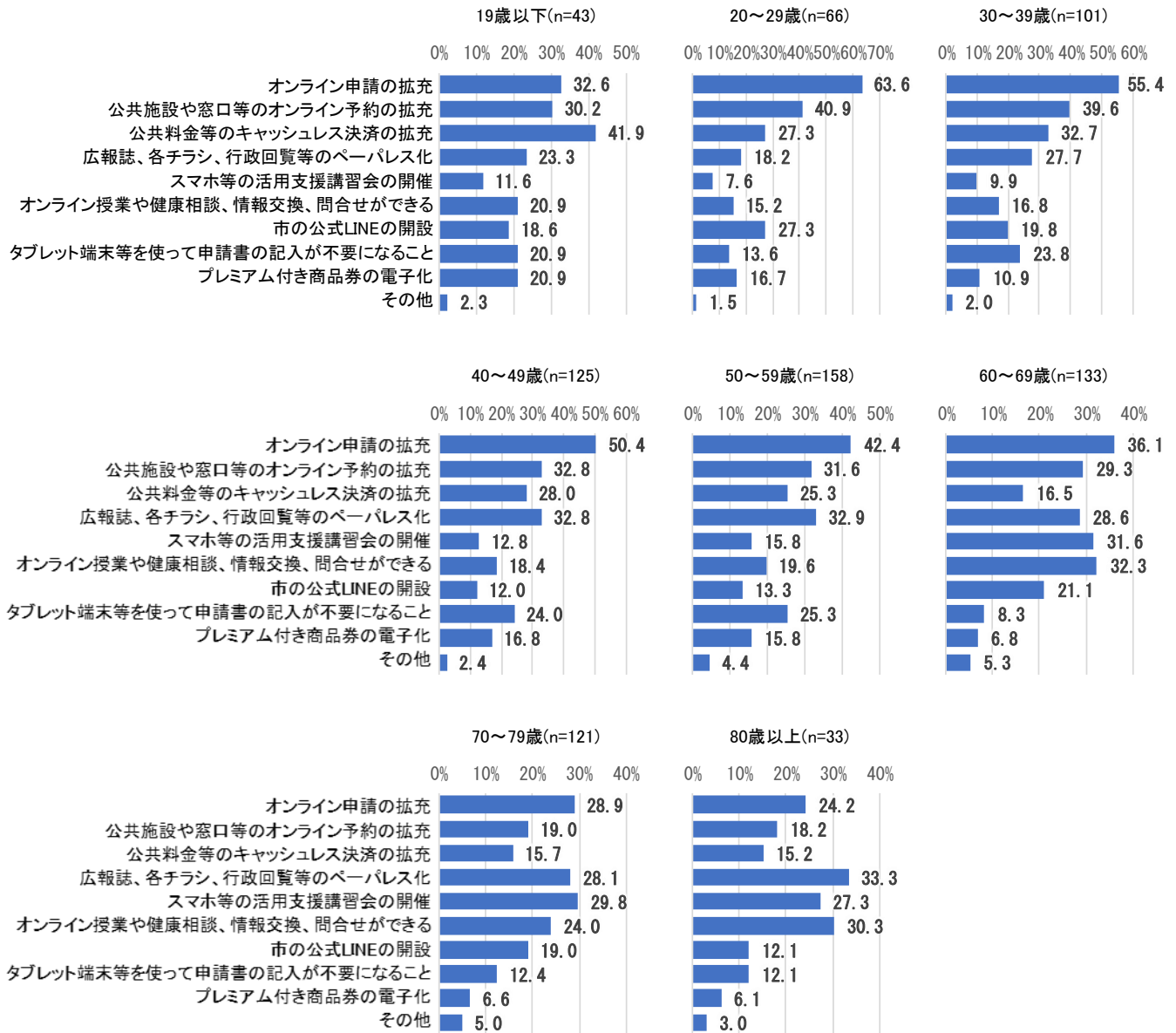
注) 複数回答 (3 個選択式) 得票率は下式で算出

$$(\text{得票率}) = (\text{有効回答数}) \div (\text{有効回答者数}) \times 100$$

【デジタル化を期待する行政手続きや行政サービス/その他の内容】

- ・ デジタル化に対する不安・不信:
- ・ デジタル化の必要性を感じない
- ・ デジタル化のサポート希望:
- ・ 従来の方法の維持希望: など

■年齢別

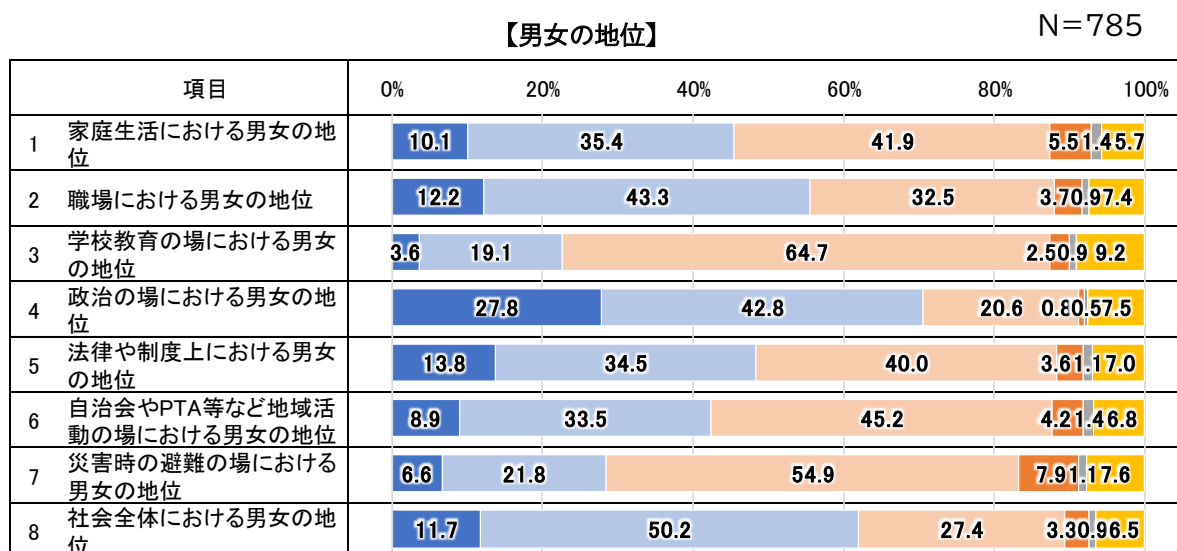


5 男女共同参画の推進について

(1) 男女の地位

角田市の男女共同参画の推進状況としては、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた《男性の方が優遇されている》は『4 政治の場における男女の地位』で70.6 %と最も多い一方、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた《女性の方が優遇されている》は『7 災害時の避難の場における男女の地位』で9.0%と最も多くなっている。

また、「平等」については『3 学校教育の場における男女の地位』が64.7%と最も多く、次いで『7 災害時の避難の場における男女の地位』が54.9%と、半数以上が平等と感じている。

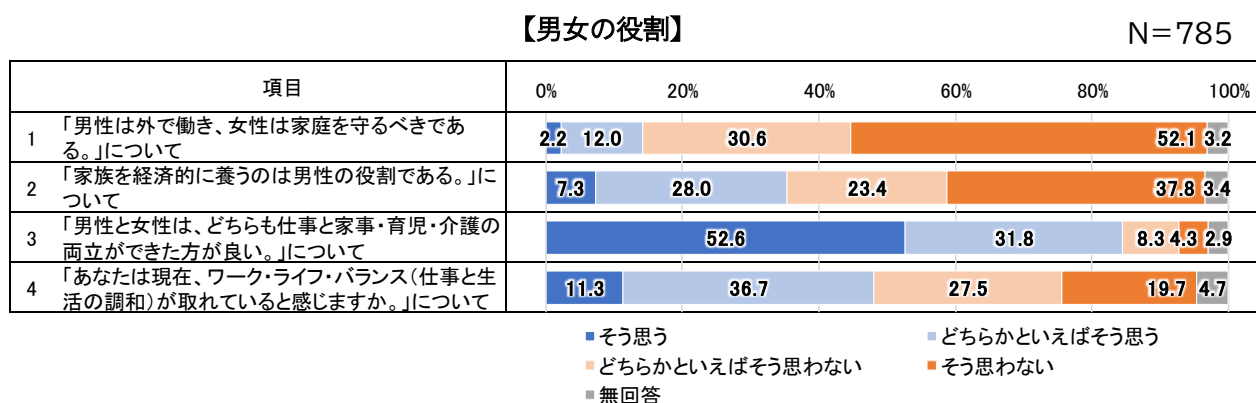


- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- 無回答

(2) 男女の役割

角田市の男女共同参画の男女の役割としては、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた《そう思う》は『3 男性と女性は、どちらも仕事と家事・育児・介護の両立ができた方が良い』で84.4 %と最も多い。一方、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた《そう思わない》は『1 男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである』で82.7%と最も多くなっている。

男女の固定的な役割分担意識に基づく性差による偏見や社会制度について、薄れていている現状が把握できた。



6 スポーツの推進について

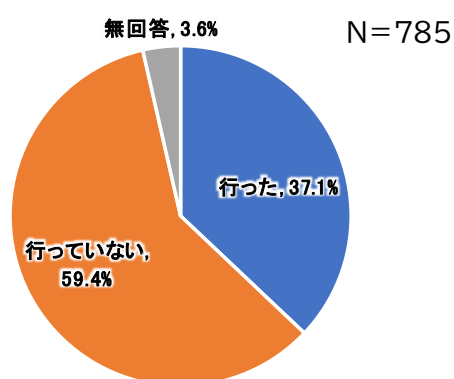
(1) 最近 1 年間における週 1 回以上の運動

最近 1 年間における週 1 回以上の運動については「行っていない」 59.4%、「行った」 37.1%となっている。

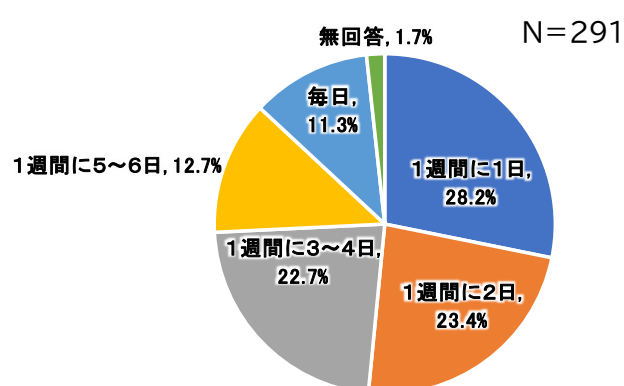
1 週間の運動日数については「1 週間に 1 日」 28.2%、「1 週間に 2 日」 23.4%、「1 週間に 3～4 日」 22.7%の順となっている。

運動を行う 1 日あたりの時間については、「1 時間以上」 33.3%、「30～60 分未満」 30.9%、「15～30 分未満」 23.4%の順となっている。

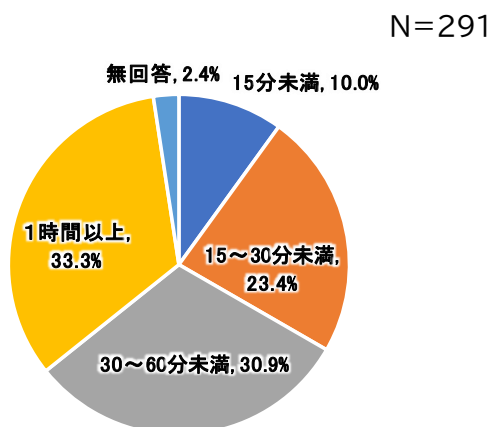
【最近 1 年間における週 1 回以上の運動の実施】



【1 週間の運動日数】



【運動を行う 1 日あたりの時間】

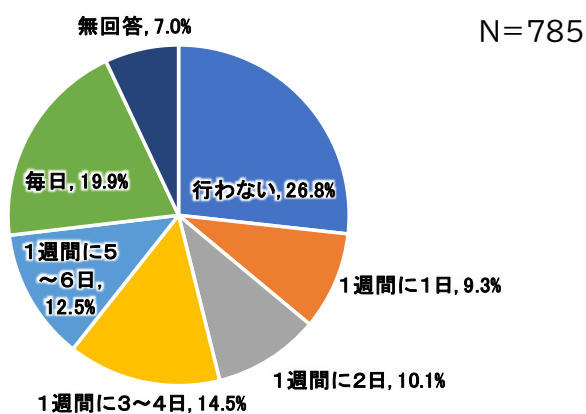


（２）過去１年間における１日30分以上「歩行と同程度か、それ以上に体を動かす身体活動」

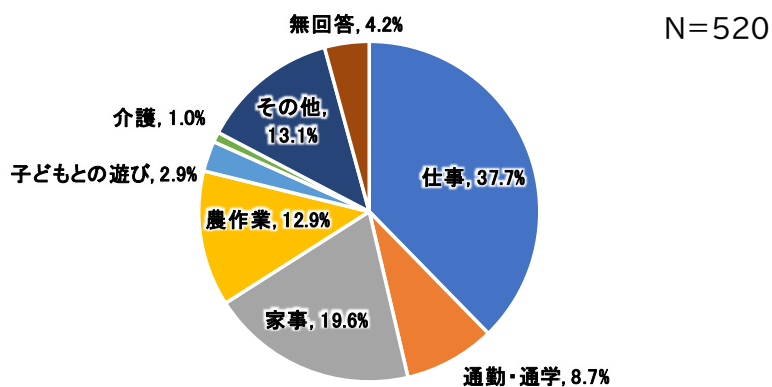
過去１年間における１日 30 分以上「歩行と同程度か、それ以上に体を動かす身体活動」については「行わない」26.8%、「毎日」19.9%、「１週間に３～４日」14.5%の順となっている。

１日 30 分以上「歩行と同程度かそれ以上に体を動かす身体活動」の主な場面については「仕事」37.7%、「家事」19.6%、「その他」13.1%の順となっている。

【過去１年間における１日 30 分以上「歩行と同程度かそれ以上に体を動かす身体活動」の実施】



【１日 30 分以上「歩行と同程度か、それ以上に体を動かす身体活動」の主な場面】



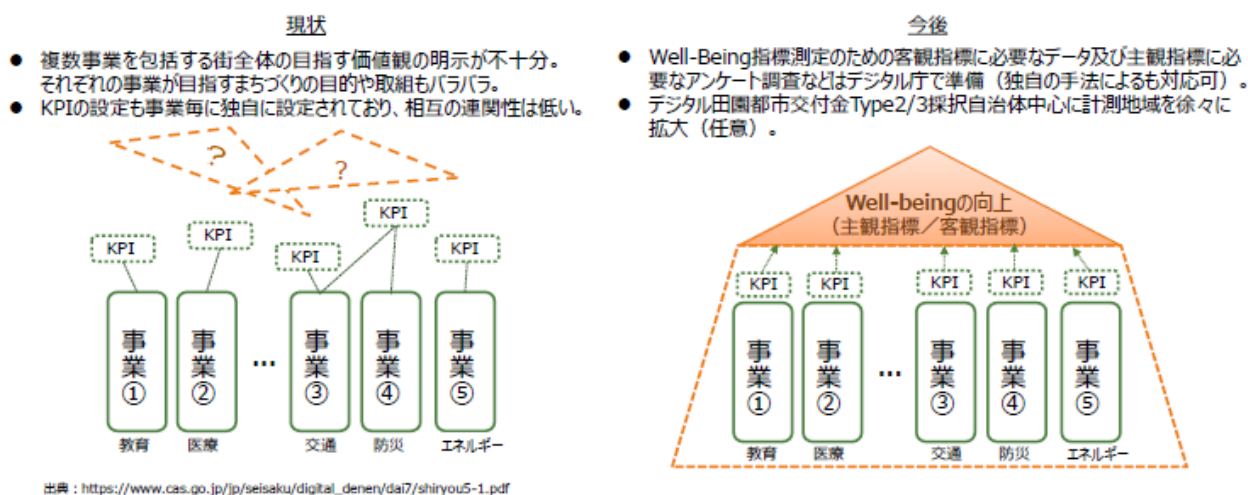
7 幸福度・満足度について

地域全体の幸福度を示す指標として、（一社）スマートシティ・インスティテュートが作成・開発したLWC指標の活用が推奨されています。LWC指標とは、Liveable Well-Being City指標の略で、市民の「暮らしやすさ」と「幸福感（Well-being）」を指標で数値化・可視化したものです。

この指標を活用し、角田市ならではの地域特性を把握し、今後の政策立案に役立てたいと考えています。

市民のWell-being向上に向けた指標の活用

- これまでのまちづくりでは、街全体の目指す価値観の明示が不十分であり、目的や取り組みも十分に整合はされていませんでした。
- 地域のWell-beingの向上にあたり、指標を利用することで、価値観や目的をすり合わせ、それぞれの取り組みの円滑な連携を図ることができます。



■ 地域幸福度(Well-Being)指標の開発・導入目的は以下の6つです。

■ スマートシティ・まちづくりにおける「人間中心主義」を明確化

- デジタルやデータではなく、市民の幸福感（Well-being）の向上に向けてスマートシティ・街づくりを始める

■ 市民の視点から「暮らしやすさ」と「幸福感（Well-being）」を数値化・可視化

- 行政、企業からではなく、市民の視点に立ちスマートシティが市民の暮らしやすさや幸福感に繋がっているか、を確認しながら進める

■ ランキングではなく、自治体が「個性を磨く」機会を創出

- 都市の個性を更に磨く気付きの材料となり、それぞれの都市の特徴をグラフの形や数値から捉えることができる

■ WHO等の国際的な枠組みを導入

- 世界的な基準と整合させた枠組みを導入し、日本のガラパゴス化を回避する

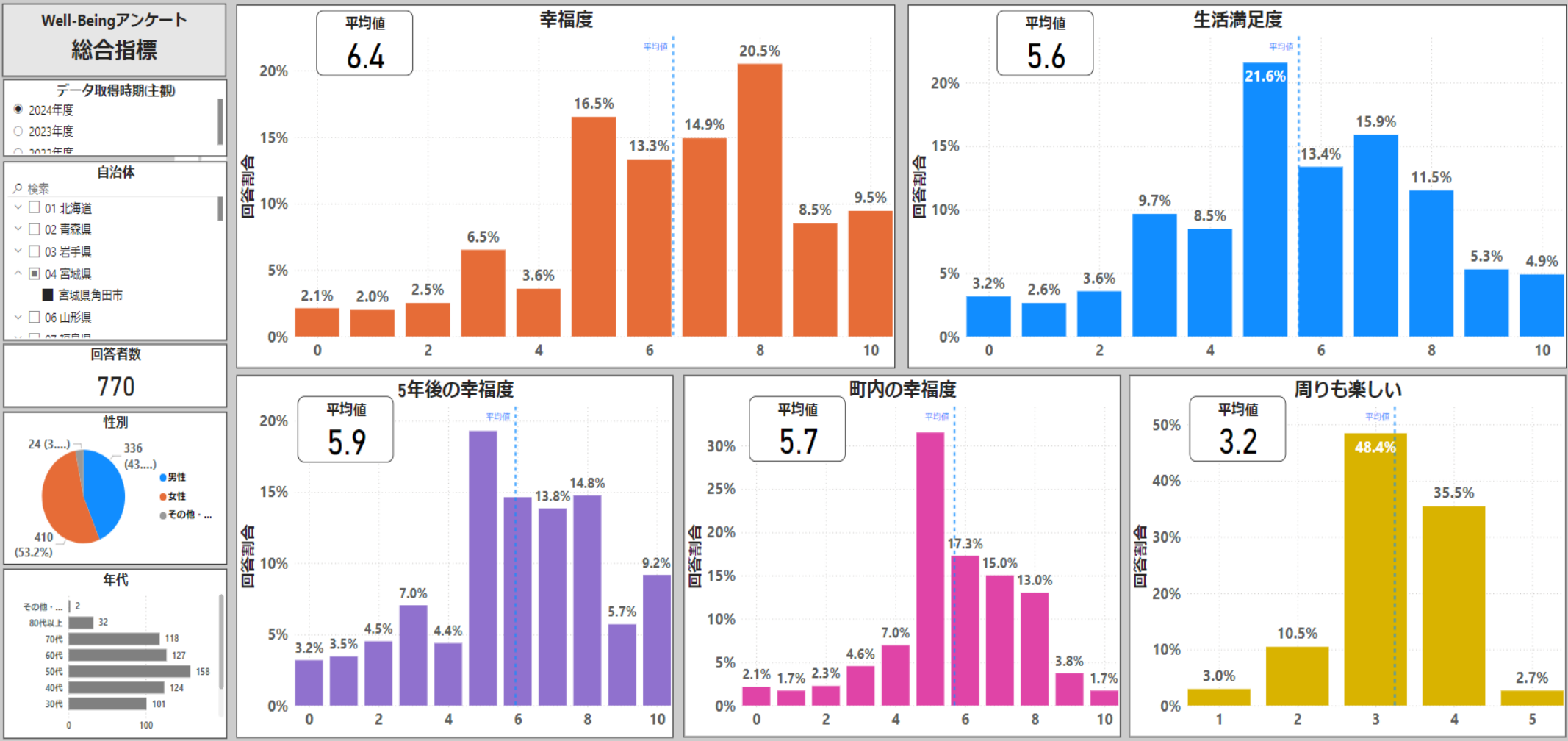
■ 客観と主観データの両方を活用。無料でオープン化

- 基礎自治体毎の客観的に測定できるデータと市民の主観によるアンケートデータの両方を無料で利用できる

■ まちづくりのEBPM・ワイズスペンディングに役立てる

- データ(根拠)に基づいた政策立案・検証や、政策効果が乏しい歳出から政策効果の高い歳出への転換に活用できる

角田市のWell-Being総合指標



出所：一般社団法人スマートシティ・インスティテュート「地域幸福度（Well-Being）指標」

Well-Beingアンケート

因子別

データ取得時期(主観)

● 2024年度
○ 2023年度
○ 2022年度

データ公開時期(客観)

○ 2024年3月公開
● 2024年12月公開
○ 2023年6月公開

自治体

検索

☐ 01 北海道

☐ 02 青森県

☐ 03 岩手県

☒ 04 宮城県

☐ 06 山形県

宮城県角田市

回答者数

770

性別

24 (3....)

336 (43.6%)

性別

● 男性

● 女性

● その他・...

410 (...)

年代

その他・未回答 2

80代以上 32

70代 118

60代 127

50代 158

40代 124

30代 101

20代 65

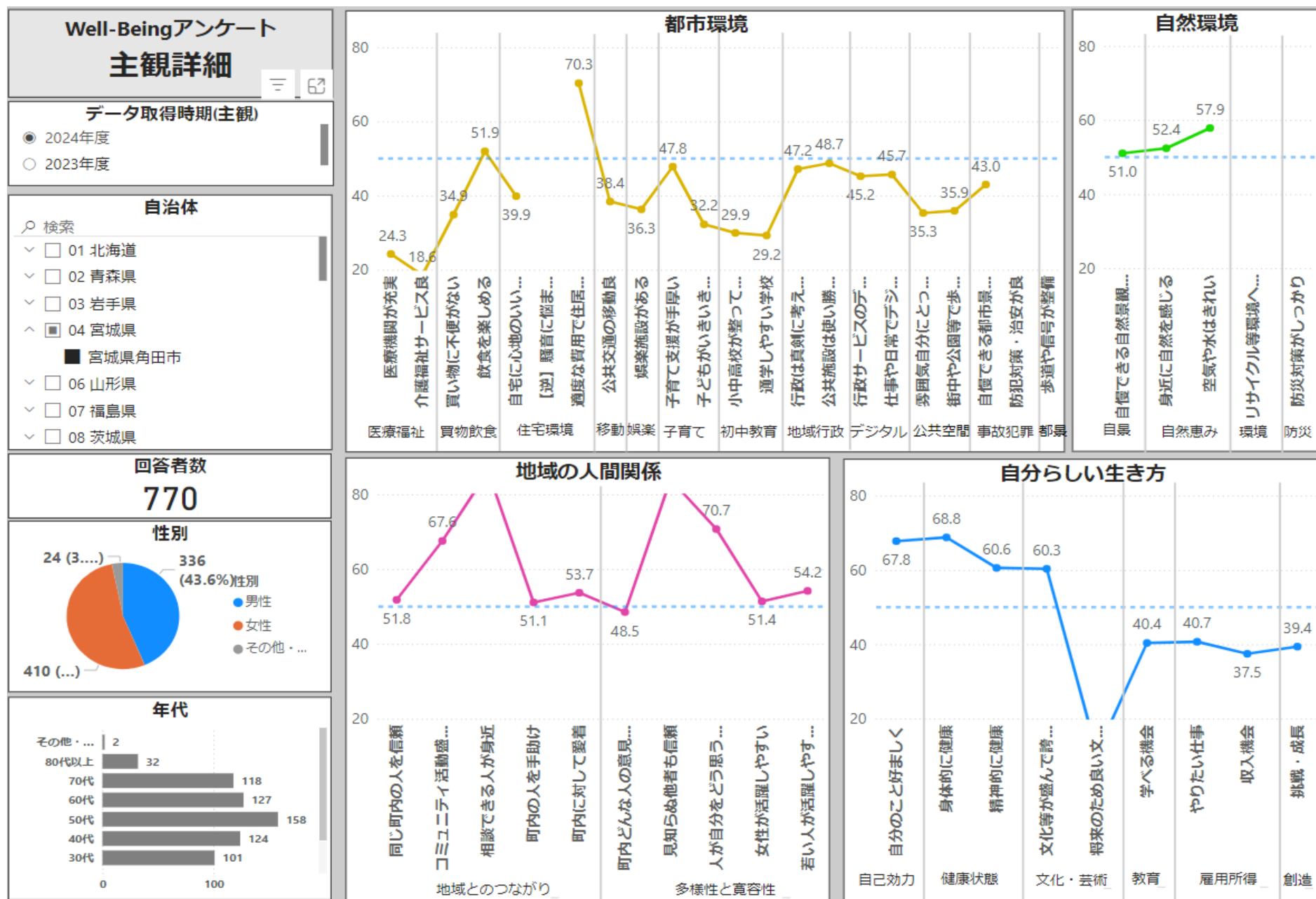
10代 43

因子	主観 (オレンジ)	客観 (グリーン)
医療・福祉	21.40	55.62
買物・飲食	43.40	43.74
住宅環境	55.08	62.43
移動・交通	38.40	44.40
遊び・娯楽	36.29	53.98
子育て	40.03	43.72
初等・中等教育	29.60	51.72
地域行政	40.83	47.94
デジタル生活	45.46	51.89
公共空間	43.10	46.06
自然景観	42.98	51.03
都市景観	41.62	55.12
自然の恵み	55.56	51.48
地域とのつながり	62.06	55.56
多様性と寛容性	61.78	45.54
自己効力感	70.47	45.54
健康状態	64.67	55.87
文化・芸術	46.18	46.11
教育機会の豊かさ	44.86	39.08
雇用・所得	40.37	54.23
事業創造	39.39	55.62

因子	主観	客観
医療・福祉	21.40	55.62
買物・飲食	43.40	43.74
住宅環境	55.08	62.43
移動・交通	38.40	44.40
遊び・娯楽	36.29	53.98
子育て	40.03	43.72
初等・中等教育	29.60	51.72
地域行政	40.83	47.94
デジタル生活	45.46	51.89
公共空間	43.10	46.06
自然景観	42.98	51.03
都市景観	41.62	55.12
自然の恵み	55.56	51.48
地域とのつながり	62.06	55.56
多様性と寛容性	61.78	45.54
自己効力感	70.47	45.54
健康状態	64.67	55.87
文化・芸術	46.18	46.11
教育機会の豊かさ	44.86	39.08
雇用・所得	40.37	54.23
事業創造	39.39	55.62

出所：一般社団法人スマートシティ・インスティテュート「地域幸福度（Well-Being）指標」

- 39 -



Well-Beingアンケート

客観詳細

データ公開時期(客観)

○ 2024年3月公開

● 2024年12月公開

○ 2023年7月公開

自治体

検索

▽ 01 北海道

▽ 02 青森県

▽ 03 岩手県

▽ 04 宮城県

☐ 宮城県仙台市

☐ 宮城県石巻市

☐ 宮城県塩竈市

☐ 宮城県気仙沼市

☐ 宮城県白石市

☐ 宮城県名取市

☒ 宮城県角田市

☐ 宮城県多賀城市

☐ 宮城県岩沼市

☐ 宮城県登米市

☐ 宮城県栗原市

☐ 宮城県東松島市

☐ 宮城県大崎市

☐ 宮城県富谷市

☐ 宮城県蔵王町

☐ 宮城県七ヶ宿町

☐ 宮城県大河原町

☐ 宮城県村田町

☐ 宮城県柴田町

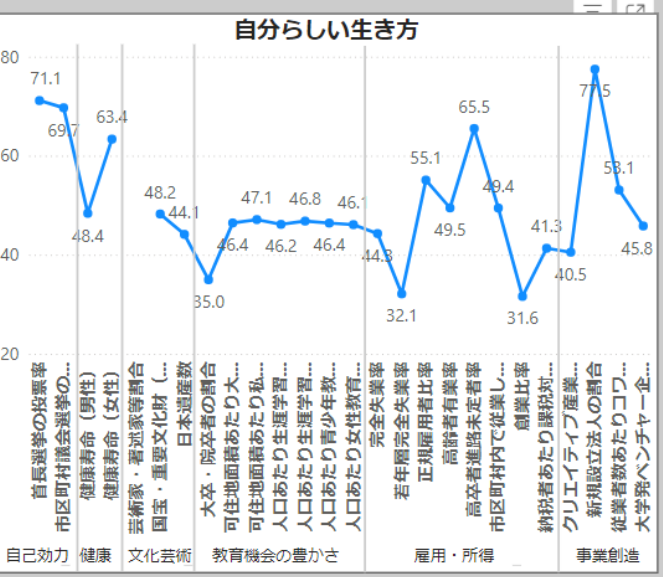
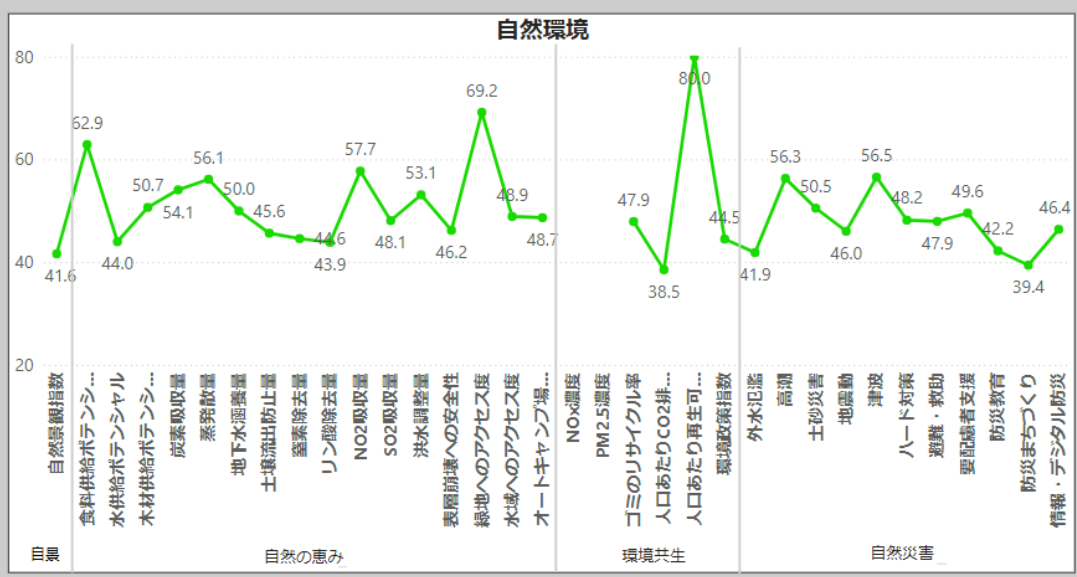
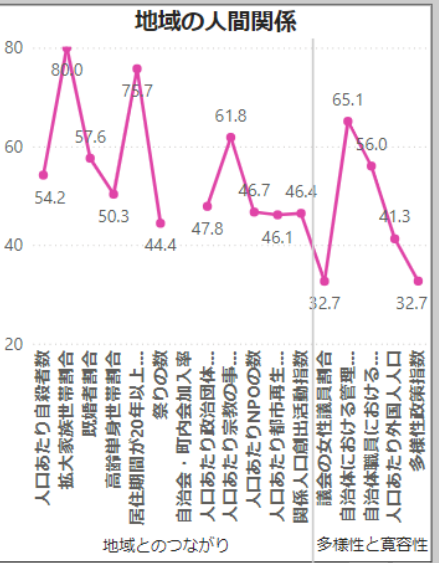
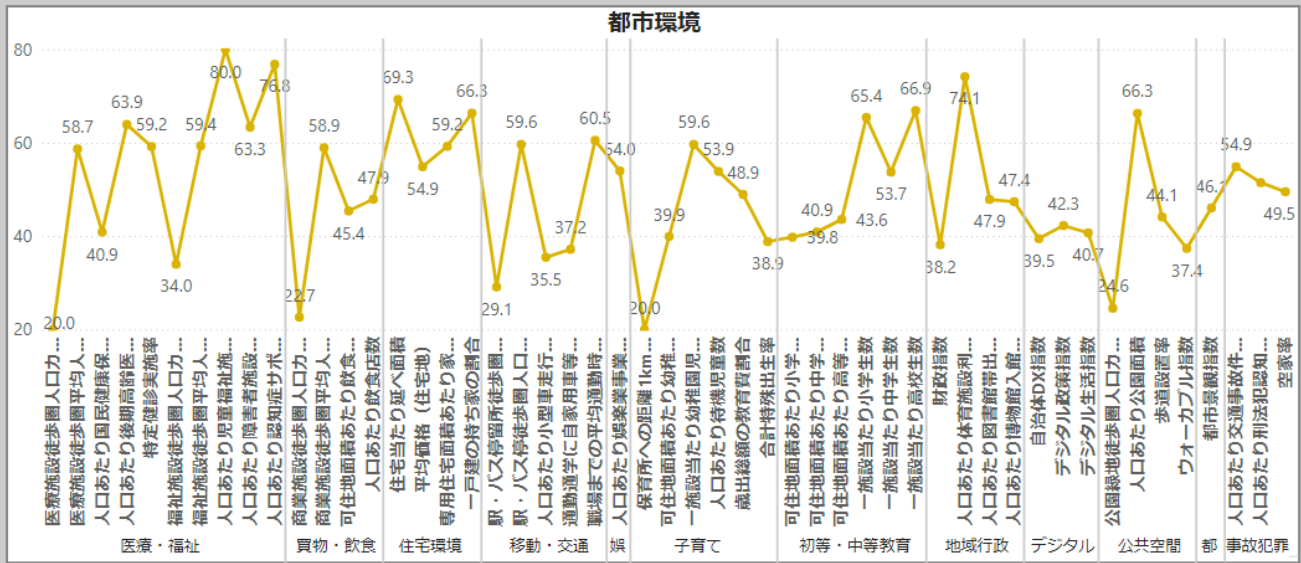
☐ 宮城県川崎町

☐ 宮城県丸森町

☐ 宮城県亘理町

☐ 宮城県山元町

☐ 宮城県刈谷町



出所：一般社団法人スマートシティ・インスティテュート「地域幸福度（Well-Being）指標」

角田市の主観指標の詳細

KPI	偏差値	KPI	偏差値	KPI	偏差値	KPI	偏差値
医療機関が充実	24.25	行政サービスのデジタル化良	45.23	若い人が活躍しやすい	54.20	自分のこと好ましく	67.77
介護福祉サービス良	18.55	仕事や日常でデジタル	45.69	女性が活躍しやすい	51.42	身体的に健康	68.77
買い物に不便がない	34.86	雰囲気自分にとって心地よい	35.31	人が自分をどう思うか気に	70.73	精神的に健康	60.57
飲食を楽しめる	51.95	街中や公園等で歩ける場所	35.90	見知らぬ他者も信頼	84.00	文化等が盛んで誇らしい	60.32
自宅に心地のいい居場所	39.85	自慢できる都市景観がある	42.98	町内どんな人の意見も受入	48.54	将来のため良い文化等を残したい	10.84
適度な費用で住居を確保	70.31			町内に対して愛着	53.70	学べる機会	40.37
公共交通の移動良	38.40			町内の人を手助け	51.12	やりたい仕事	40.71
娯楽施設がある	36.29			相談できる人が身近	86.09	収入機会	37.46
子育て支援が手厚い	47.82			コミュニティ活動盛ん	67.55	挑戦・成長	39.39
子どもがいきいきと暮らせる	32.25	KPI	偏差値	同じ町内の人を信頼	51.82		
小中高校が整っている	29.94	自慢できる自然景観がある	51.03				
通学しやすい学校	29.25	身近に自然を感じる	52.39				
行政は真剣に考えている	47.16	空気や水はきれい	57.86				
公共施設は使い勝手良	48.72						

角田市の客観指標の詳細

客観KPI	偏差値	客観KPI	偏差値	客観KPI	偏差値	客観KPI	偏差値	客観KPI	偏差値	客観KPI	偏差値
医療施設徒歩圏人口カバー率	20.00	保育所への距離1kmの住宅割合	20.00	自然景観指数	41.62	外水氾濫	41.86	人口あたり自殺者数	54.18	首長選挙の投票率	71.14
医療施設徒歩圏平均人口密度	58.68	可住地面積あたり幼稚園数	39.93	食料供給ポテンシャル	62.89	高潮	56.32	拡大家族世帯割合	80.00	市区町村議会選挙の投票率	69.69
人口あたり国民健康保険者医療費	40.89	一施設当たり幼稚園児数	59.64	水供給ポテンシャル	43.98	土砂災害	50.51	既婚者割合	57.60	健康寿命（男性）	48.38
人口あたり後期高齢医療費	63.92	人口あたり待機児童数	53.87	木材供給ポテンシャル	50.66	地震動	46.01	高齢単身世帯割合	50.31	健康寿命（女性）	63.36
特定健診実施率	59.20	歳出総額の教育費割合	48.94	炭素吸収量	54.08	津波	56.54	居住期間が20年以上の人口割合	75.74	国宝・重要文化財（建造物）数	48.24
福祉施設徒歩圏人口カバー率	34.01	合計特殊出生率	38.85	蒸発散量	56.13	ハード対策	48.18	祭りの数	44.41	日本遺産数	44.13
福祉施設徒歩圏平均人口密度	59.35	可住地面積あたり小学校数	39.78	地下水涵養量	49.96	避難・救助	47.94	人口あたり政治団体等の数	47.84	大卒・院卒者の割合	34.97
人口あたり児童福祉施設数	79.98	可住地面積あたり中学校数	40.92	土壌流出防止量	45.64	要配慮者支援	49.55	人口あたり宗教の事業所数	61.83	可住地面積あたり大学・短期大学数	46.44
人口あたり障害者施設数	63.34	可住地面積あたり高等学校数	43.59	窒素除去量	44.58	防災教育	42.20	人口あたりNPOの数	46.68	可住地面積あたり私立・国立中高一貫校数	47.11
人口あたり認知症サポーター・サポーター数	76.80	一施設当たり小学生数	65.43	リン酸除去量	43.86	防災まちづくり	39.41	人口あたり都市再生推進法人・UDC数	46.12	人口あたり生涯学習講座数	46.15
商業施設徒歩圏人口カバー率	22.67	一施設当たり中学生数	53.73	NO2吸収量	57.73	情報・デジタル防災	46.38	関係人口創出活動指数	46.42	人口あたり生涯学習講座受講者数	46.81
商業施設徒歩圏平均人口密度	58.95	一施設当たり高校生数	66.90	SO2吸収量	48.09			議会人口創出活動指数	46.42	人口あたり青少年教育施設利用者数	46.41
可住地面積あたり飲食店数	45.40	財政指数	38.16	洪水調整量	53.11			議会の女性議員割合	32.65	人口あたり女性教育施設利用者数	46.09
人口あたり飲食店数	47.94	人口あたり体育施設利用者数	74.14	表層崩壊への安全性	46.20			自治体における管理職の女性割合	65.08	完全失業率	44.29
住宅当たり延べ面積	69.28	人口あたり図書館帯出者数	47.88	緑地へのアクセス度	69.17			自治体職員における障害者の割合	56.01	若年層完全失業率	32.12
平均価格（住宅地）	54.87	人口あたり博物館入館者数	47.39	水域へのアクセス度	48.89			人口あたり外国人人口	41.26	正規雇用者比率	55.09
専用住宅面積あたり家賃	59.25	自治体DX指数	39.49	オートキャンプ場への立地	48.66			多様性政策指数	32.69	高齢者有業率	49.48
一戸建の持ち家の割合	66.34	デジタル政策指数	42.28	ゴミのリサイクル率	47.90					高卒者進路未定者率	65.50
駅・バス停留所徒歩圏人口カバー率	29.14	デジタル生活指数	40.72	人口あたりCO2排出量	38.52					市区町村内で従業している者の割合	49.45
駅・バス停徒歩圏人口密度	59.64	公園緑地徒歩圏人口カバー率	24.57	人口あたり再生可能エネルギー発電容量	80.00					創業比率	31.60
人口あたり小型車走行キロ	35.50	人口あたり公園面積	66.29	環境政策指数	44.49					納税者あたり課税対象所得	41.32
通勤通学に自家用車等を用いない割合	37.21	歩道設置率	44.13							クリエイティブ産業事業所構成比	40.53
職場までの平均通勤時間	60.51	ウォークアブル指数	37.40							新規設立法人の割合	77.47
人口あたり娯楽事業所数	53.98	都市景観指数	46.06							従業者数あたりコワーキングスペース数	53.10
		人口あたり交通事故件数	54.88							大学発ベンチャー企業数	45.82
		人口あたり刑法犯認知件数	51.48								

出所：一般社団法人スマートシティ・インスティテュート「地域幸福度（Well-Being）指標」

(1) 官公庁と SWOT 分析の関係性

SWOT 分析は、組織の内部環境（強み・弱み）と外部環境（機会・脅威）を分析するフレームワークです。官公庁においても、SWOT 分析を活用することで、組織の現状を把握し、課題解決に向けた戦略を立てることができます。

SWOT分析を通じて、官公庁は自らの強みを活かしつつ、弱みを克服し、機会を捉えて脅威に対処する戦略を立てることができます。これにより、より効率的かつ効果的な行政運営が可能となり、市民の利益につながるのです。

		外部環境	
		Opportunity 機会とは？	Threat 脅威とは？
内部環境	Strength 強みとは？	1.強みを活かして機会を最大限に利用するために何を？	3.強みを活かして、脅威を回避、または打ち負かすには？
	Weakness 弱みとは？	2.弱みによって機会を取りこぼさないために補完、補充、改善すべきことは？	4.想定される最悪の事態をどう回避するか？

SWOT は分析項目である、Strength（強み）、Weakness（弱み）、Opportunity（機会）、Threat（脅威）の頭文字です。大きく分けると、この4つはまた2つに分類できます。Strength（強み）、Weakness（弱み）は組織の内部環境に関すること、また、Opportunity（機会）、Threat（脅威）は外部環境に関することです。

出所：Webサイト<https://www.itmedia.co.jp/bizid/articles/1205/31/news060.html>

SWOT 分析を実施することで、官公庁は自組織の強み、弱み、機会、脅威を明確に把握することができます。SWOT 分析の結果を基に、以下のような戦略を策定することができます。

1. 強みを活かす戦略(SO 戦略)

強みを活かして機会を捉える戦略を立てる。

2. 弱みを克服する戦略(WO 戦略)

弱みを改善し、機会を活かす戦略を立てる。

3. 強みで脅威に対抗する戦略(ST 戦略)

強みを活かして脅威に対処する戦略を立てる。

4. 弱みを最小化し、脅威を回避する戦略(WT 戦略)

弱みを最小限に抑え、脅威を回避する戦略を立てる。

これらの戦略を組み合わせることで、官公庁は自組織の強みを最大限に活かしつつ、弱みや脅威に対処することができます。

(出所： <https://techsuite.biz/18557/> TechSuite AI BLOG 生成AI活用のための 総合情報サイト)

幸福度に関するSWOT分析（角田市）

組織の内部環境（強み・弱み）と外部環境（機会・脅威）を分析する

	T（脅威）	O（機会）
S （強み）	（主観50以上、客観50未満を記載） - 多様性と寛容性 - 自然景観 市民は強いと思っているが、客観的にはそうでもない ⇒ やがて劣化していくことが予想される	（主観と客観の偏差値50以上を記載） - 自己効力感 - 健康状態 - 地域とのつながり - 住宅環境 - 自然の恵み
W （弱み）	（主観と客観の偏差値50未満を記載） - 文化・芸術 - 雇用・所得 - 公共空間 - 子育て - 教育機会の豊かさ - 都市景観	（主観50未満、客観50以上を記載） - 医療・福祉 - 事業創造 - 遊び・娯楽 - 地域行政 - 環境共生（主観データなし） - 事故犯罪（主観データなし） - 初等・中等教育 客観的には強いが、市民が気づいていない ⇒ 知らせることで認識が変わる可能性がある

出所：デジタル庁一般社団法人スマートシティ・インスティテュート「地域幸福度(Well-Being)指標分析作業用テンプレート」

幸福度との相関係数が 0.4 以上の因子を赤枠、生活満足度との相関係数が 0.4 以上の因子を青枠で囲む。

幸福度に関するSWOT分析（角田市）

組織の内部環境（強み・弱み）と外部環境（機会・脅威）を分析する

	T（脅威）	O（機会）
S （強み）	（主観50以上、客観50未満を記載） - 多様性と寛容性 - 自然景観	（主観と客観の偏差値50以上を記載） - 自己効力感 - 健康状態 - 地域とのつながり - 住宅環境 - 自然の恵み
W （弱み）	（主観と客観の偏差値50未満を記載） - 文化・芸術 - 雇用・所得 - 公共空間 - 子育て - 教育機会の豊かさ - 都市景観	（主観50未満、客観50以上を記載） - 医療・福祉 - 事業創造 - 遊び・娯楽 - 地域行政 - 環境共生（主観データなし） - 事故犯罪（主観データなし） - 初等・中等教育

優先的に取り組むべき政策領域は、
「強み&機会」（SO）をどう活かすから考える。

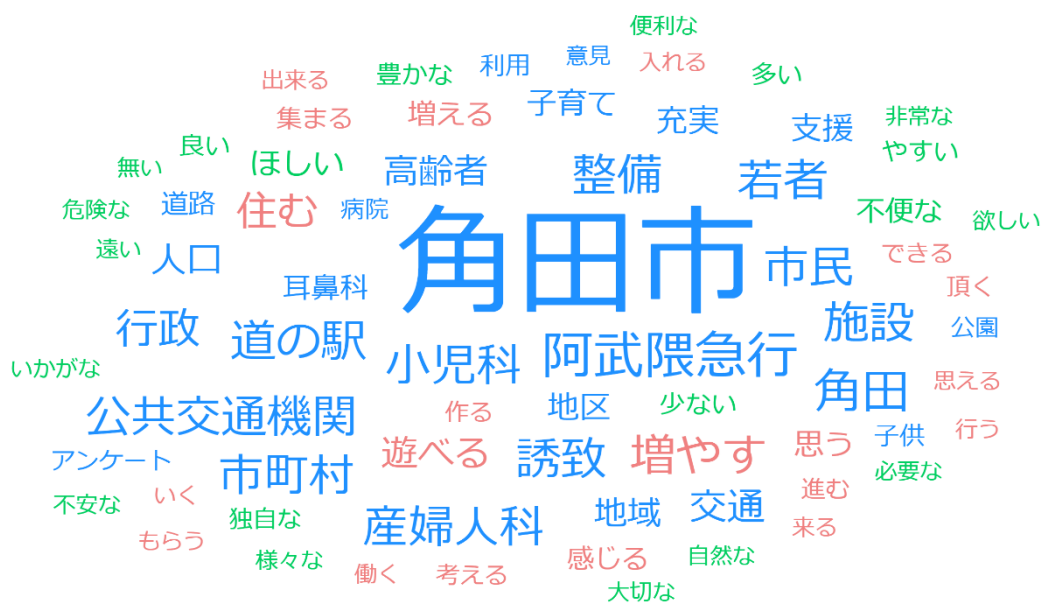
8 まちづくりについての自由意見

全回答数 785 票のうち、自由意見の記載は 265 票 (33.7%) である。

自由記述の内容は多方面にわたっているが、今後の総合計画の方向性にかかわる提案、要望、課題や日々の市民生活における改善についての要望などとして、主な内容をテキストマイニングすると以下のような項目が比較的多く挙げられている。

【自由記入のテキストマイニング※結果】

※大量のテキストデータから有益な情報を抽出する技術。単語の色は、青色が名詞、赤色が動詞、緑色が形容詞・形容動詞、灰色が感動詞。



令和6年度市民アンケート報告書
令和7年3月
角田市 企画デジタル課